

重点推進研究

特別支援学級における自閉症のある児童生徒の カリキュラムアセスメント（仮称）に 基づいた教育課程編成の実証的研究

（平成 22 年度～23 年度）

中間報告書

平成 23 年 3 月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

目 次

第Ⅰ章 研究計画

- 1 研究の趣旨及び目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 研究全体の構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 研究内容及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第Ⅱ章 カリキュラムアセスメント(仮称)の必要性

- 1 自閉症・情緒障害特別支援学級での教育課程の編成に関する課題・・・・・・・・ 9
- 2 カリキュラムアセスメント(仮称)の必要性・・・・・・・・・・・・・・ 13

第Ⅲ章 国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の作成

- 1 評価規準と作成方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 2 カリキュラムアセスメントシート(仮称)案・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 3 カリキュラムアセスメントシート(仮称)の使い方・・・・・・・・・・・・ 30

第Ⅳ章 研究協力校における国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)を活用しての実態把握

- 1 研究協力校における自閉症・情緒障害特別支援学級の現状・・・・・・・・・・・・ 35
- 2 研究対象児童生徒の国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の活用・・・・ 37
- 3 研究対象児童生徒の国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の活用の分析・・ 65
- 4 2年目の研究課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78

第Ⅰ章 研究計画

1 研究の趣旨及び目的

「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」（2001）において、自閉症が知的障害や情緒障害とは異なる障害であり、その障害特性に応じた研究の重要性が指摘されてから、本研究所においても自閉症教育の在り方に関する研究を推進してきた。近年では、「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究－知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に－」（2005）や、「特別支援学校における自閉症の特性に応じた指導パッケージの開発研究」（2007）が行われ、知的障害特別支援学校における自閉症教育として、自閉症の特性を追求し、特性に対応した指導内容や指導方法を明らかにしてきている。

また、「小・中学校における自閉症・情緒障害等の児童生徒の実態把握と教育的支援に関する研究」（2007）も実施され、当時の情緒障害特殊学級に在籍している児童生徒の障害特性や、その程度、実際の教育内容等について調査結果をまとめている。

さらに、「自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際的研究」（2010）では、知的障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の実態を明らかにした上で、上述した知的障害特別支援学校における自閉症教育に関する研究成果を検証し、特別支援学級における自閉症教育を推進するための教育課程の編成案を提案するとともに、自立活動の指導の内容を検討し結果を報告している。

この研究では、当時の情緒障害特殊学級における自閉症のある児童生徒の実態調査と同様に、知的障害特別支援学級に在籍している自閉症のある児童生徒の実態も明らかにしており、その結果、知的障害の有無、知的障害や適応状態の程度などに大きな差異、幅があることから、特別支援学級の担当教員は教育課程の編成に困難を極めていることや、自閉症のある児童生徒の特性に対応した教育を推進することに困難を感じていることを明らかにしている。

また、特別支援学級に在籍している自閉症のある児童生徒の自立活動の内容と指導を行う背景要因等を、アンケート調査や研究協力校による聞き取り調査から分析している。それによると、自立活動の主な指導内容として、「余分な不安感をもたないような指導」、「支障となるこだわりの軽減」、「自己コントロールやセルフマネジメントの指導」、「状況把握や相手の心情等の理解」、「学習等のルール理解と適切な行動への遂行の指導」、「適切な対人関係を築くためのコミュニケーションスキルの獲得」等が散見していた。そして、これら指導の背景要因には、『極端な不安感』、『こだわり』、『固執』、『心情理解の困難』、『感情表出の希薄さ』、『感覚の過敏性』、『他者意識の希薄さ』、『メタ認知形成不全』、『想像力の弱さ』等があることも明らかになっていた。このような分析から、自閉症は知的障害や情緒障害とも異なり、

特別支援学級においても自閉症教育を適切に推進することが必要であるとまとめている。

そこで、本研究は、前述の特別支援学級を対象にした研究をさらに継続発展する研究として位置付け、以下について限定的に検討をすることで、特別支援学級における自閉症教育にかかる教育課程の在り方を総合的に進めることとする。

①研究対象は、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している知的発達の様子が標準ならびに軽度の自閉症のある児童生徒とし、前年度の研究において提案した教育課程編成案のAとBタイプに該当する児童生徒とする。

＊前年度研究での「教育課程編成案」の提案では、Aタイプは知的発達の様子が標準である自閉症のある児童生徒を想定し、当該学年の教科等の指導＋自立活動を提案している。またBタイプは、知的障害の程度が軽度である自閉症のある児童生徒を想定し、下学年相応の教科指導＋当該学年の教科等の指導＋自立活動を提案している。

その理由として、従前の情緒障害特別支援学級の名称が自閉症・情緒障害特別支援学級と変更され、より適切な自閉症教育が求められていることや、自閉症・情緒障害特別支援学級の就学基準を考慮すると、知的障害の及ぼす影響が自閉症教育を検討する上で少なくすむことを考慮したからである。

②自閉症・情緒障害特別支援学級において、自閉症のある児童生徒の教科指導の在り方を検討する。そのため、前年度までに履修した教科学習の到達度を簡便に理解するために、カリキュラムアセスメントシート(仮称)を作成し、その結果から、自閉症のある児童生徒の学習内容の重点化、指導時間数の妥当性などを事例的に検討する。

その理由として、自閉症のある児童生徒の教科学習においては、自立活動の指導と同様に、知的障害や情緒障害のある児童生徒とは内容が異なると推測している。

文部科学省において実施している「自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業」の中間報告では、岡山県教育委員会(2009)は、研究指定校の自閉症・情緒障害特別支援学級における国語科や算数科・数学科に関しても、他者の心情推察が苦手である自閉症の特性が教科学習に影響を及ぼしている旨を報告している。

また、小学校で自閉症・情緒障害特別支援学級を担当している海老原(2010)は、高機能広汎性発達障害のある児童を指導するにあたり、算数科本来の教科目標と自閉症の認知特性を踏まえて指導するためには、算数科の単元ごとのアセスメントが必要であり、特別支援学級での指導と通常の学級における交流及び共同学習での指導内容のリンクが可能な、個別の指導計画が重要であると述べている。宮崎ら(2008)は、中学校の特別支援学級に在籍する高機能広汎性発達障害の生徒を対象に、国語教材を用いたアセスメントを行ったところ、他者

の気持ちを推測することが困難であるなどの結果を得て、出来事と感情語を文法的に正しく理解させる指導を実施している。

さらに、矢野・笠井（2009）は、通常の学級に在籍しているアスペルガー症候群の児童を対象に、読書力診断テストや物語教材の理解の特徴を把握するなど、登場人物の人柄や気持ちの理解、文章表現の面白さの理解などにおいて、現実に関心したり、字義通りに解釈したりするなど、自閉症スペクトラム障害の特性が背景要因にあることが示された。そのため、感情を計画的に学習することや、感情のレベルの違いを示す手がかりの読み方や、反応の仕方を教える物語教材の指導の必要性を述べている。

岡村・渡部・大木（2009）は、通常の学級に在籍するアスペルガー症候群のある児童の算数科指導において、学習を遂行するための自己管理の支援方法を検討しているが、この研究では、算数科の教材を指導の媒介にした自立活動的な指導となっている。

本研究では、自閉症・情緒障害特別支援学級での教育課程の編成に関する研究であるため、対象児童生徒の総授業時数との関連で指導内容等を決定していく必要がある。そもそも自閉症・情緒障害特別支援学級での限られた指導時間の中で、例えば国語学習ではどのような内容を教材として用意しているのか、また年間を通した国語学習において、もし指導内容の重点化があるとするならば一体どのような内容なのか。現在、自閉症・情緒障害特別支援学級における自閉症のある児童生徒に対するスタンダードな教科指導のモデルがないことから、上述したことを念頭において、個々の実態から事例的にまとめることを想定している。

その際、教科学習の習得の程度を把握することが重要であるが、現状では、各担当教員の経験則に基づいた個別の指導計画で評価しているため、本研究では、自閉症のある児童生徒の国語科や算数科・数学科の学習の習得の程度に関する評価を各担当者が簡便に実施できることを目的に、カリキュラムアセスメントシート（仮称）を作成する。

2 研究全体の構造

以下の図は、本研究課題に関する全体の構造図である。研究デザインの概要としては、基礎研究と実践研究の両面から研究課題に迫る予定であり、基礎研究では、カリキュラムアセスメント(仮称)のためのチェックシートを作成することが主目的である。実践研究では、研究協力校の自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員とともに、自閉症のある児童生徒の教科学習、特に国語科や算数科・数学科について学習内容の習得状態を把握するとともに、学習内容の重点化の有無とその背景について聞き取り調査を行い、カリキュラムアセスメントシート(仮称)を作成した段階で使用してもらい、次年度の教育課程の編成に活かしてもらうことを目的としている。

研究課題の構造図

< 研究対象 >

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している、知的発達の様子が標準あるいは軽度の遅れの、自閉症のある児童生徒

< 研究対象の限定理由 >

- ①自閉症・情緒障害特別支援学級の名称が変更され、より明確に自閉症教育が求められている背景がある。
- ②自閉症・情緒障害特別支援学級の現行における就学基準を考慮している。
- ③研究期間が2年間ということを想定すると、知的障害特別支援学校学習指導要領を含めたカリキュラムアセスメントシート(仮称)の作成が困難であること。
- ④本研究成果を、通級による指導や通常の学級における指導に生かすことを想定している。

< 研究デザイン案 >

< 基礎研究 >

- ①小・中学校学習指導要領をもとに、国語科及び算数科・数学科に関する指導目標や指導内容について整理する。
- ②国立教育政策研究所が提案している評価規準を参考にして、カリキュラムアセスメントシート(仮称)を作成する。
- ③諸外国のカリキュラム情報の収集及び整理分析をする。

< 実践研究 >

- ①研究協力校における自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程に関する情報を収集し、担当スタッフと担当教員が共同で、対象児童生徒の教科指導について検討する。
- ②カリキュラムアセスメントシート(仮称)の使用に関する意見等の収集。
- ③カリキュラムアセスメントシート(仮称)の改善と使用後の教育課程の編成情報を収集する。

◎カリキュラムアセスメントシート(仮称)の作成 ◎事例から自閉症の教科教育を検討

3 研究内容及び方法

(平成 22 年度) (平成 23 年度)

2 年間の研究において期待される研究成果は以下の通りである。

- 1) カリキュラムアセスメントシート(仮称)の作成により、自閉症のある児童生徒の特性に応じた教育課程の編成に関する指針の提言が可能である。
- 2) 自閉症のある児童生徒に対し、国語科並びに算数科・数学科の指導内容の設定に関する指針の提言が可能である。
- 3) 交流及び共同学習における教科選択に関する指針の提言が可能である。

上記の 1) ～ 3) の結果を想定し、研究計画は以下のような方法で進めていく。

- ①文部科学省調査官(自閉症教育担当)、大学研究者や教育委員会指導主事、自閉症・情緒障害特別支援学級が設置されている設置校長会会長、研究協力機関(小・中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級設置)、並びに研究分担者の 10 名により推進する。
- ②特別支援学級の教育課程に関する資料及び先行研究、並びに自閉症のある児童生徒を対象とした教科教育に関する情報収集を行い、知見を整理する。
- ③研究協力機関校の自閉症・情緒障害特別支援学級の実態及び教育課程等に関する情報収集を実施し、カリキュラムアセスメントシート(仮称)作成の検討材料とする。
- ④②及び③等からカリキュラムアセスメントシート(仮称)項目を作成し、協力校に使用を依頼し修正等を行っていく。
- ⑤年間を通して、研究協力校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の教科教育について、研究分担者と協力校担当教員と共同で実践研究を実施していく。
- ⑥研究協力者からは、小・中学校における自閉症教育の在り方や、自閉症・情緒障害特別支援学級における教育課程編成の在り方、具体的に実践を推進する上での知見の提供を依頼する。

4 研究組織

研究協力者：石塚 謙二（文部科学省特別支援教育課 特別支援教育調査官）
渡部 匡隆（横浜国立大学 教授）
青山 新吾（岡山県教育庁特別支援教育室 指導主事）
河本 眞一（全国特別支援学級設置学校長協会会長・中野区立桃園小学校校長）

研究協力機関校

茨城県取手市立取手小学校（担当者：海老原紀奈子）
茨城県取手市立戸頭西小学校（担当者：藤田直子）
神奈川県横須賀市立船越小学校（担当者：荒川正敏）
神奈川県横浜市立大曾根小学校（担当者：植田可奈恵）
千葉県大綱白里町立大綱東小学校（担当者：関奈穂子）
神奈川県伊勢原市立中沢中学校（担当者：深澤しのぶ）
千葉県横芝町立光中学校（担当者：行木陽子）
宮城県仙台市立宮城野中学校（担当者：佐藤ひろみ）

研究代表者：廣瀬由美子（教育支援部 総括研究員）

研究分担者：小澤 至賢（教育支援部 主任研究員）

井上 昌士（教育支援部 総括研究員）

菊地 一文（教育支援部 主任研究員）

猪子秀太郎（教育支援部 主任研究員）

渥美 義賢（発達障害教育情報センター 上席研究員）

笹森 洋樹（発達障害教育情報センター 総括研究員）

大城 政之（発達障害教育情報センター 主任研究員）

柳澤亜希子（企画部 研究員）

北澤 英和（平成22年度 研究研修員）

<文献>

- ・(独)国立特別支援教育総合研究所(2005)「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究－知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に－」
- ・(独)国立特別支援教育総合研究所(2007)「特別支援学校における自閉症の特性に応じた指導パッケージの開発研究」
- ・(独)国立特別支援教育総合研究所(2007)「小・中学校における自閉症・情緒障害等の児童生徒の実態把握と教育的支援に関する研究」
- ・(独)国立特別支援教育総合研究所(2010)「自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実証的研究」
- ・岡山県教育委員会(2009)「平成21年度自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業 中間報告書」
- ・海老原紀奈子(2010)「自閉症スペクトラム障害のある児童への算数科の指導－「時刻と時間」の学習を通して－」特別支援教育第39号.
- ・宮崎光明・加藤永歳・宇野宏幸(2008)「高機能広汎性発達障害児における文脈を考慮した感情理解の指導」LD研究, 17(1).
- ・矢野正・笠井恵美(2009)「アスペルガー症候群の一事例における物語理解の問題－宮沢賢治著「注文の多い料理店」の場合－」LD研究, 18(1)
- ・岡村章司・渡部匡隆・大木信吾(2009)「アスペルガー障害児の算数テスト場面における課題従事行動の支援－自分で見出した解答方略を活用した自己管理の効果の検討－」日本特殊教育学研究, 47(3).

第Ⅱ章 カリキュラムアセスメント(仮称)の必要性

1 自閉症・情緒障害特別支援学級での教育課程の編成に関する課題

1) 自閉症・情緒障害特別支援学級の現状

平成 21 年 2 月 3 日付けで、文部科学省は通知文 1167 号「情緒障害者を対象とする特別支援学級の名称について(通知)」を出している。この通知は法的な規定とは言えないものの、従前の情緒障害特別支援学級の対象である「情緒障害者」を、「自閉症・情緒障害者」と改めている。したがって、この通知により、一般に情緒障害特別支援学級は、自閉症・情緒障害特別支援学級と呼称されることになった。

そこで、指導対象が明示された自閉症・情緒障害特別支援学級において、適切な自閉症教育を推進していくには、担当教員の専門性の向上が重要である。特に、近年は自閉症・情緒障害特別支援学級が急増し、全国的には毎年 1,000 学級程度の増加があり、それに伴って児童生徒数が 5,000 人以上増加している現状がある(文部科学省)。

また、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している児童生徒の大半は、自閉症のある児童生徒であることが明らかになっており、小学校では約 75%、中学校でも 60%が自閉症のある児童生徒の在籍であった(国立特別支援教育総合研究所, 2007)。このデーターを、平成 21 年度の特別支援教育資料を使って概算すると、小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童は、約 27,200 人、中学校では 8,100 人、合計 35,300 人程度と推測できる。

さらに、知的発達をその内訳でみていくと、知的発達に遅れがない標準の児童生徒は約 20%、知的障害の程度が軽度の児童生徒は 40%程度、中度・重度の知的障害のある児童生徒は 40%前後といった結果も明らかになっている(国立特別支援教育総合研究所, 2007)。

一方、全国特別支援学級設置学校長協会が実施したアンケート調査では、特別支援学級の大多数の担当教員は経験年数が 0 年～3 年未満であり、3 年以上の担当教員数はなだらかな減少傾向を示している(2010)。つまり、自閉症・情緒障害特別支援学級は、急激に増加していることもあって、担当する教員の専門性は、経験年数からしても十分な状態ではないことが推測される。また、特別支援学校教員免許を保有している担当教員の割合も調査しているが、その結果は約 30%の保有率であった。

そのような現状において、特別支援学級の担当教員の最も大きな悩みは、特別の教育課程の編成方法である(国立特別支援教育総合研究所, 2007・2010)。この問題は、自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員にとっても切実である。それは、多くの自閉症・情緒障害特別支援学級において、異学年の児童生徒が混在していること、発達障害である自閉症と心因性の情緒障害の状態像を示す児童生徒が混在していること、知的発達が大きく異なる児童生徒が混在していること、それらを考慮した指導内容や指導方法を踏まえ、適切な教育課程の編成をすることが非常に困難であるからだ。

特別支援学級における教育課程の編成に関しては、知的障害特別支援学級においては知的障害特別支援学校学習指導要領を参考にすることができるが、自閉症教育にかかる教育課程の編成に関しては、自閉症・情緒障害特別支援学級がモデルにすべきスタンダードなものは

明示されてはいない。各自治体における特別支援学級の教育課程編成に関する情報は、都道府県・政令指定都市教育委員会や、教育センター等のホームページを調査した結果から、いくつかの自治体がガイドブックや手引き書といった冊子を作成していることが明らかになっている（国立特別支援教育総合研究所, 2010）。

一例として、長野県教育委員会作成の「特別支援教育 教育課程 学習指導手引き書 小学校・中学校編」（2010）では、自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程の編成において、小・中学校の学習指導要領に基づいた教育課程の編成を基本としながらも、特別の教育課程の編成も可能であることから、その際は特別支援学校の学習指導要領を参考にすることを述べている。しかし、上述したように、教育的ニーズが異なる自閉症のある児童生徒が多く在籍する学級では、知的障害のある児童生徒を対象にした教育課程の編成が必ずしも適しているとは限らない。この課題に対応するためには、やはり自閉症の児童生徒の特性を踏まえた指導内容を明確にし、自閉症・情緒障害特別支援学級における教育課程の編成について、最低限必要で基本的な内容や方針を提案していく必要があるだろう。

2）自閉症研究「自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際的研究—小・中学校における特別支援学級を中心に—」から

上記表題は、平成 20 年度と 21 年度に自閉症研究班が行った研究である。知的障害特別支援学級も視野に入れながら、自閉症・情緒障害特別支援での教育課程の編成案を提案している。それによると、特別支援学級に在籍している自閉症のある児童生徒の状態は、知的発達程度も標準から中・重度までと大きな幅があり、また適応状態にしても、支援が特に必要のない児童生徒から、一部支援が必要な児童生徒、常時支援が必要な児童生徒と、同じ自閉症であっても状態像も教育的ニーズも多岐にわたっている実態が明らかになっている。

また、特別な指導である自立活動の指導については、アンケート調査や 5 校の研究協力校の聞き取り調査から、自閉症のある児童生徒の指導内容とその背景は、例えばダウン症などの児童生徒と異なることが推測されている。

具体的には、「特定の人や物への固執」、「時間への脅迫的な思い」、「数に対する強いこだわり」、「活動への見通しがもてないことへの強い不安」、「こだわりや認識不足による強い偏食」、「勝敗に対する強いこだわり」、「集団への強い不安感」、「音の過敏性」、「キーパーソンの不在への不安感」、「状況把握の困難」、「変化への不安感」、「急な変更への不安感」、「興味・関心への強いこだわり」、「コミュニケーションスキルの未確立」、「興味関心が狭い」、「情報の整理が困難」、「スキルの般化が困難」、「他者の心情理解が困難」、「状況把握が困難」、「欲求に対する自己コントロールが困難」、「メタ認知の弱さ」、「動きのぎこちなさ、不器用さ」、「情報の抱え込み」、「他者へのかかわりの希薄さ」、「学習ルールや会話のルール理解に課題」、「感情表現の乏しさ」などがあがっている。

上記の研究では、このような自立活動の指導内容が児童生徒のどのような背景要因から行われたのかを整理しているが、それによると『こだわり』、『極端な不安感』、『感覚の過敏性』、

『心情理解の困難さ』、『感情表出の希薄さ』、『他者とのかかわりの希薄さ』、『メタ認知の形成不全』などが想定され、それを自閉症の特性からキーワードで示すと、『セントラルコーヒレンス』、『不安感』、『固執』、『対人関係』、『コミュニケーションスキル』、『心情理解』、『メタ認知』、『セルフコントロール』、『ぎこちなさ・不器用』、『感情表出』、『状況把握』、『シングルフォーカス』、『刺激の過剰選択性』などにまとめている。

さらに、この研究では、自閉症のある児童生徒の自立活動の指導内容を整理し、知的障害や情緒障害とは異なる背景があることを明示した上で、特別支援学級の教育課程の編成案を提案している。以下の図が4つのタイプに分けた教育課程の編成案である。

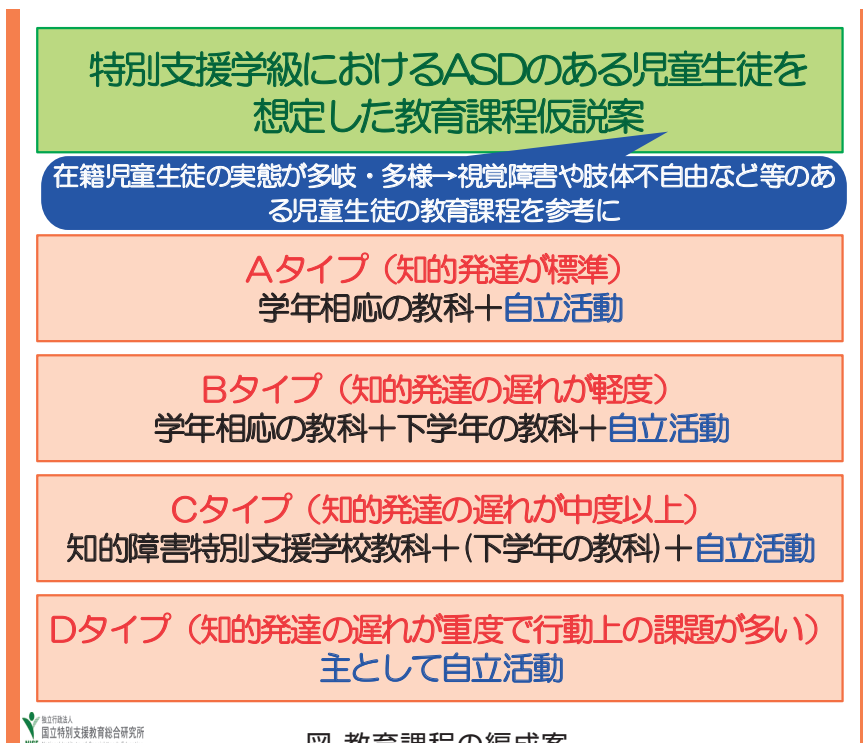


図 教育課程の編成案

Aタイプは、知的発達が標準であるが、自閉症の特性に関しては対応すべき課題があり、実際には通級による指導を利用している児童生徒をイメージしている。交流及び共同学習では、学年相応の教科指導を受けることを基本とするが、特別支援学級では自立活動を中心とした指導を行い、必要に応じて、教科指導においても自立活動の内容を付加する等の指導が必要なタイプである。場合によっては、通級による指導の対象の児童生徒を含むこともあり、

個別指導や小集団指導により、対人関係やコミュニケーションスキルの獲得、ルールやマナー等に関する社会的な行動調整の方法、想像力を豊かにする指導、不安を軽減する指導などが想定される。

Bタイプは、知的発達の遅れが軽度であり、適応状態も一部支援が必要な程度の児童生徒をイメージしている。特別支援学級での各教科の指導は、知的発達の程度に応じて1～2年程度の下学年の教科目標や内容の適応を想定している。さらに、自閉症の特性に対応すべき課題については、自立活動の時間における指導を設けるなど、直接的な指導が重要であると思われる。また、交流及び共同学習も充実していく必要があるが、自閉症の特性を踏まえると、例えば総合的な学習の時間における指導において、取り組むべき課題が明確に理解しにくい場合や、体育（保健体育）のように集団活動を前提とする場合など、交流及び共同学習としては、自閉症のある児童生徒には主体的な活動になりにくいことが予想される。

Cタイプは、知的障害の程度が中度であり、その適応状態も一部支援が必要、あるいは常時支援が必要な児童生徒をイメージしている。知的発達の遅れも大きいことから、児童生徒によっては知的障害特別支援学校の各教科に代替えすることや、生活単元学習や日常生活学

習といった領域・教科を合わせた指導の実施も想定される。しかし、適応状態においては、自閉症の特性が大きく関与していると思われることから、教科指導や領域・教科を合わせた指導以外にも、自閉症の特性に対応すべき課題については、自立活動の時間における指導を設けるなど、直接的な指導が重要であると思われる。

Dタイプは、教育課程の編成上、知的障害と自閉症があり、その状態により特に自立活動の内容がかなり多く必要である児童生徒をイメージしている。DタイプとCタイプの境界は困難であるが、Dタイプについては、知的発達の遅れがより大きく、支援が常時必要である児童生徒を想定しているので、このタイプは、主として自立活動を中心とした指導が想定されるが、Aタイプの自立活動とは、具体的な指導内容や指導方法などが大きく異なると想定している。

以上がこの研究の概要であるが、特に、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒を想定した教育課程の編成案は、実際の特別支援学級の現状をもとに作成したため、CタイプとDタイプまで想定せざるを得ない実態があった。

しかし、特別支援学級の在籍に関する対象規準等に関連させると、本来はAタイプとBタイプに応じた児童生徒が主な対象となることから、本研究においては、それらの児童生徒を研究の対象としている。さらに、特別支援学級における教科指導の在り方については、先の研究でも重要と判断していたことから、本研究では、自閉症の特性を踏まえた教科指導の検討や検証を主要な目的に据え、本研究課題の中核として実施している。

2 カリキュラムアセスメント(仮称)の必要性

1) 学習評価の考え方

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会から報告された「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2010)では、「学習評価は、学習指導要領の目標の実現状況を把握し、指導の改善に生かすものである。」と、学習評価の基本的な考え方を整理した上で、「学習評価は、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するもの」と述べている。同報告に関して、辰野(2010)は、「子どもの能力・適性の理解が必要であり、また一人一人の子どもについての指導目標の達成状況を正しくみきわめ、その結果を指導に反映していくことが必要である。」と述べている。

そもそも学習評価をするということは、児童生徒の学習の習得や定着の結果を確認することであり、そのことは、教師の教授行動全般の妥当性の評価と表裏一体になると考える(北尾, 2006)。

学習評価の基本的な意味づけは、児童生徒の学習の特徴や学習スタイルを評価する視点と、学習の達成状況を評価する視点、さらに学習の定着状態を評価することにある。

学習の特徴や学習スタイルを評価する意図には、児童生徒一人一人の学び方を教師が理解することにより、授業計画や指導内容、指導方法や教材の妥当性等を見直すことで指導の調整が可能となる。この評価は形成的評価といわれる内容にほぼ該当すると考える。

また、学習の達成状況を評価する意図は、教授目標や学習内容に対して児童生徒が望ましい結果を得られたか否かを評価することにある。したがって、教師側からは、指導計画や指導方法の改善の視点になるとともに、児童生徒にとっては成績となって結果が示され、十分に達成できた教科とそうでない教科が明確になる。この評価は総括的評価に値する。

学習の定着状態を評価する視点は、例えば次年度の学習計画を作成する段階で、前年度の学習のつまずき等を確認する診断的評価があるが、具体的には、一つの単元を指導する前に学級の児童生徒に対して行われる事前テストなども相当する。この事前テストによって、既習の学習に対する定着を確認することが可能であり、それによって一つの単元の指導計画や用いる教材等についても再考することができる。

安彦(2010)は、先の報告に関して、「障害のある児童生徒の学習評価の考え方は、障害のない児童生徒の学習評価のそれと基本的に変わらないが、個々人の学習状況を一層丁寧に把握し、特別支援学校では個別の指導計画の作成が義務づけられたので、その計画に基づく学習状況や学習結果の評価を行うこと。」と要約している。

この基本的な考え方は当然であるが、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している児童生徒の学習、及びその評価の在り方に関しても該当することである。上記の報告の具体では、障害のある児童生徒の学習評価に対する基本的な考え方として、①障害の状態等を丁寧に見取り、②行動観察や提出物なども活用して、③各児童生徒の学習状況を丁寧に把握する工夫を求めている。また、④学習指導要領に定める目標に準拠した評価を行うことや、⑤個人内評価を重視すること、⑥指導目標や指導内容、評価規準の設定においては妥当性があることも具体的に求めている。

同様に、武田(2010)は、障害のある児童生徒の学習評価においては、「できた」という活動の結果を求めるだけでなく、安心感、自尊感情、自己効力感などに配慮しながら、障害の

ある児童生徒の潜在的な能力を引き出す必要性を述べている。

2) カリキュラムアセスメント(仮称)

本研究で使用しているカリキュラムアセスメント(仮称)ⁱ⁾は、既に教育現場で使用されているカリキュラム・ベース・アセスメントと差別化をしている。何故なら、カリキュラム・ベース・アセスメントは形成的評価の一方法であるが、中心的なねらいは学習指導を最適化することであり、週2回程度の頻度で児童生徒の思考過程を探ったり、現時点で知っていることや理解していることを確認しながら、教師の指導にフィードバックするための構造化された手続きだからである(中野, 2006)。

一方、本研究が作成しているカリキュラムアセスメント(仮称)は、どちらかというと言断的評価と同様の考え方で作成している。つまり、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒に対して、新学年の教育課程を編成する際に、前年度に実施した国語科や算数科・数学科の学習内容を、評価規準のレベルで習得状況を把握することが目的だからである。学習内容の達成度を厳密に評価し把握するのなら、自閉症・情緒障害特別支援学級で行う国語科や算数科・数学科の評価規準に従って児童生徒を理解することは必須であるが、評価規準のレベルでは、多様な状態像を示す自閉症のある児童生徒の多くに対応するカリキュラムアセスメント(仮称)の作成が難しいと考えたからである。

そこで、本研究が提案しているカリキュラムアセスメント(仮称)は、自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員が、在籍する自閉症のある児童生徒の国語科と算数科・数学科の習得状況を把握することを意図して作成しているため、カリキュラム・ベース・アセスメントと異なっていることを断っておく。

3) 自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の学習評価

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している自閉症のある児童生徒の教科指導は、知的障害の有無によって、指導する学習内容や評価の視点も異なっている。特に国語科や算数科・数学科の教科指導では、当該学年の教科書を利用するケースの他、学校教育法附則第90条により学年を下げた教科書を使用するケース、知的障害特別支援学校の教科書、いわゆる「☆本」を使うケースや、一般図書を使うケースと様々である。

また、知的発達が遅れない高機能自閉症等の教科指導にしても、通常教育課程と同様に、年間計画にそって決められた学習内容を全て行うことは困難であるため、各担当教員が作成した個別の指導計画に基づいて、指導内容を選択し、指導時間数を決定しているのである。つまり、児童生徒によって取り扱う指導内容や指導時間も異なることが多いということである。例えば、同じ高機能自閉症と診断された児童生徒であっても、それぞれの児童生徒によって年間で取り扱う指導内容に違いが見られるのである。したがって、特別教育課程においては、児童生徒の障害の程度や学習の習得状況から、各教科の指導内容等が異なってくることもある意味では特徴であり、その特徴を生かすことが重要である。

その際、自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員は、教科学習において重点的に取り扱

う内容と、比較的軽く取り扱う内容を限られた時間でどのように配分し、どのような指導計画をたてているのであろうか。さらに、学習評価はどのように実施しているのであろうか。

推測するに、教科学習の内容を選択するなどして教育課程を編成し、実際に行われる教科の学習指導は、個別の指導計画によって具体化され実施されていると思われる。しかし、自閉症の障害特性を踏まえた教科指導のスタンダードは確立されていないため、自閉症・情緒障害特別支援学級での国語科や算数科・数学科といった学習では、児童生徒の実態に応じて指導をするといった理解のもとで、各担当者が個々人の力量で指導を行っている現状である。

そうであれば、先の全国特別支援学級設置学校長協会の実態調査からも明らかなように、特別支援学級担当教員の経験年数や、特別支援学校免許の未習得状況から、自閉症のある児童生徒に対する指導を行う際には、教科指導においても十分な実態把握がなされていないことが懸念される。

また、特別支援学級の担当教員も短期間で異動することを考えると、国語科や算数科・数学科だけでも、対象児童生徒の習得の状態や習得内容の有無について、実態把握が可能で簡便なツールが必要であろう。

そこで、自閉症・情緒障害特別支援学級の担当経験年数が少ない教員でも、在籍する自閉症のある児童生徒の、国語科と算数科・数学科の学習の習得状況が把握できるよう、カリキュラムアセスメント(仮称)を可能にするシートの作成が必要と考えた。

<文献>

- ・文部科学省(2009)「情緒障害者を対象とする特別支援学級の名称について(通知)」
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2010, 2009, 2008, 2007, 2006)「特別支援教育資料」
- ・(独)国立特別支援教育総合研究所(2007)「小・中学校における自閉症・情緒障害等の児童生徒の実態把握と教育的支援に関する研究」
- ・(独)国立特別支援教育総合研究所(2010)「自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際的研究」
- ・全校特別支援学級設置学校長協会調査部(2010)「平成 21 年度 全国調査報告書」
- ・長野県教育委員会(2010)「特別支援教育 教育課程 学習指導手引き書 小・中学校編」
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2010)「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
- ・北尾倫彦(2008)「授業改革と学力評価」, 図書文化.
- ・北尾倫彦・成家亘宏編集(2003)「小学校国語 観点別評価実践事例集」図書文化.
- ・北尾倫彦・金子守編集(2003)「中学校国語 観点別評価実践事例集」図書文化.
- ・北尾倫彦・青柳偕行編集(2003)「小学校算数 観点別評価実践事例集」図書文化.
- ・北尾倫彦・鈴木彬・内海淳編集(2003)「中学校数学 観点別評価実践事例集」図書文化.
- ・辰野千尋・石田恒好・北尾倫彦(2006)「教育評価事典」図書文化.
- ・辰野千尋(2010)「学習評価基本ハンドブック」図書文化.
- ・北尾倫彦(2006)「スキルアップ 学びを引き出す学習評価」図書文化.
- ・安彦忠彦(2010)「学校における学習評価の基本」, 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課編集特別支援教育第 39.
- ・武田鉄郎(2010)「障害のある子どもたちの学習評価の在り方」, 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課編集特別支援教育第 39.
- ・中野良顕(2006)「カリキュラム・ベース・アセスメント」教育評価事典, 図書文化.
- ・今中博章(2006)「発達障害児の教育実践におけるカリキュラム依拠ダイナミック・アセスメントの可能性と課題」東京成徳大学研究紀要第 13 号.
- ・文部科学省初等中等教育局(2010)「小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」

ⁱ カリキュラムアセスメント(仮称)の名称については、その変更も含めて今後検討をしていく予定である。本稿の使い方は、文中でも明記してあるが、教育現場で使用されているカリキュラム・ベース・アセスメントとの差別化を考えている。

第Ⅲ章 国語科のカリキュラムアセスメントシート(仮称)の作成

1 評価規準と作成方法

カリキュラムアセスメントシート(仮称)は、診断的評価の考え方に基づいて、自閉症のある児童生徒の学習の習得状況に関する実態を把握する目的で、国立教育政策研究所による「評価基準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料－評価基準、評価方法等の研究開発(報告)」(2002)の国語科の評価規準を参考に作成した。

国語科の評価規準は、小学校1年生～中学校3年生までの内容を使用している。また、本研究で使用した国立教育政策研究所の国語科の評価規準は、シートの作成を開始した時期には新しい学習指導要領に対応した評価基準が出されていなかったことから、従前の内容で作業を実施した。その後、国立教育政策研究所から新学習指導要領に対応した評価規準(「評価基準の作成のための参考資料－小学校－，－中学校－」，2010)が昨年12月に示されたが、既に大方の作業が終了していたことから、今年度の研究においては、国語科の評価規準は以前のバージョンの提案とするが、次年度に新しい評価規準で作成をし直す予定である。

尚、カリキュラムアセスメントシート(仮称)としては、国語科と算数科・数学科を作成する計画である。現在、算数・数学は新しい評価規準でシートの作成に取り組んでいるが、本報告においては示す段階には至っていないので、本稿では国語科について報告する。

以下は、国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の作成手順である。

①小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校1年、2・3年の評価規準を、それぞれ一覧にまとめ、評価規準として示された内容をスタッフによって分割した。

(分割する意図は、評価規準が長文であることや、内容の異なる活動が習得された上で、さらなる学習内容の習得が求められていることから、そのままでは自閉症のある児童生徒の学習内容に関する習得の評価が難しいと推測されたからである。)

②スタッフが分割した各評価規準の整合性を図るため、研究所で研修を受けていた自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員(専門研修生)5人を対象に、分割した評価規準を使用して児童生徒の習得のチェックを依頼し、その際の意見や感想を参考にして再修正を実施した。

③②のシートを研究協力校の自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員にチェックを依頼し、その感想や意見等を参考にして再々修正を実施した。

④③のシートを研究協力者に確認し、意見や感想等を参考にして、さらなる修正を重ねた。

以下は、国立教育政策研究所の評価基準を小学校1年から中学校3年までに領域ごとに整理した一覧である。尚、カリキュラムアセスメントシート(仮称)の分割に関するルールは、枠内のように決めて整合性を高めるよう努めた。

①「話すこと・聞くこと」に関する領域

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年及び第3学年
国語への関心・意欲・態度	相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。	相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。	話の組立てを工夫して話そうとしたり、話し手の意図を考えながら聞き取ろうとするとともに計画的に話し合おうとしている。	身近な生活における話題について関心をもち、自分の考えを進んで話そうとしたり相手の話を的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を大切にしようとしている。	広い範囲から話題を求め、表現を工夫して話そうとしたり相手の立場や考えを尊重して的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を豊かにし言語生活を向上させようとしている。
話す・聞く能力	知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話している。	物事に対する自分の考えや気持ちを分かりやすく話している。	広い範囲から話題をとらえて話している。
	大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている。	話し手の意図を考えながら話の内容を聞いている。	話し手の意図を考えて話の内容を聞き取っている。	話し手のものの見方や考え方をとらえて、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりしている。
	身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。	互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている。	自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。	自分の考えや気持ちを伝えるのにふさわしい話題を選び出し、取り上げている。	話の中心の部分と付加的な部分との関係に注意して、話したり聞き取ったりしている。
				全体と部分との関係、事実と意見との関係に注意して、話したり聞いたりしている。	事実と意見との関係に注意し、論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりしている。
				話合いの話題や方向をとらえて、的確に話したり聞いたりしている。	話の内容に応じ、適切な語句を選択して、話したり聞き取ったりしている。
				相手の考えと比較して、自分の考えをまとめている。	話の意図に応じ、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりしている。
言語についての知識・理解・技能	姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。	話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意して話したり聞いたりしている。	相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて、話したり聞き分けたりしている。
	丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	文や文章のいろいろな構成があることについて理解し、活用している。	語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話したり聞いたりするとともに、事象や行為などを表す多様な語句について理解している。	互いの共通点や相違点などを聞き分け、自分の考えを広めたり深めたりしている。
	文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	日常よく使われる敬語の使い方に慣れている。	話の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて話したり聞いたりしている。	相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて、話したり聞き分けたりしている。
		文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。	共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話している。	単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して話したり聞いたりしている。	相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて、話したり聞き分けたりしている。
		相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。		書き言葉とは違う話し言葉の特色や役割を理解し、適切に話したり聞いたりしている。	相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて、話したり聞き分けたりしている。
					共通語や方言の果たす役割などについて理解して話したり聞いたりするとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に話したり聞いたりしている。

②「書くこと」に関する領域

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年及び第3学年
国語への関心・意欲・態度	相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりにて文章を書き、読み直そうとしている。	相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている	目的や意図に応じて、書く必要のある事柄を整理したり、文章全体の組立てを工夫したりして、効果的に書こうとしている。	身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、進んで書き表そうとしたりしている。	広い範囲から必要な材料を集め、立場や伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように表現を工夫するとともに、書くことにより自らの生活を振り返って生活を豊かにしようとしている。
書く能力	相手や目的を考えながら、書いている。	相手や目的に応じて、適切に書いている	目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書いている	身近な生活や学習の中から課題を見付けている	広い範囲から課題を見付けている。
	書こうとする題材に必要な事柄を集めている	書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている	全体を見通して、書く必要のある事柄を整理している	課題に関する材料を集め、それを基にして自分の考えをまとめている。	必要な材料を集め、それを基に自分のものの見方や考え方を深めている
	自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えている	伝えたい事実や事柄、課題、自分の考えや気持ちを明確にしている。	課題に対する自分の立場、伝えたい事実や事柄を明確にしている。
	事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	書こうとする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書いている	事象と感想、意見などを区別して書いている・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりしている	自分の考えや気持ちを的確に表すために、広い範囲から適切な材料を選んでいる	文章の形態に応じて、書き出しや中心部分の展開など適切な構成を工夫している。
	文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。	表現の効果などについて確かめたり工夫したりしている	書いた文章を読み返して、読みやすく分かりやすい文章にしている	自分の意見の基となる根拠を明らかにしている。
				互いの文章を読み、題材の伝え方や材料の集め方などについて相互に学び合って、自分の表現の参考になっている	文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している
言語についての知識・理解・技能	平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書き、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して書き、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。	文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて書いている。	相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどを考えたりして書いている。
	第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第2学年)	日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)	表現するために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けている	単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して書いている。	単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して書いている。
	長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、活用している。	話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解し、適切に書いている。	共通語と方言の果たす役割などについて理解して書くとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使っている。
	句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。	【漢字】・小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている【漢字】。	【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち、第2学年では950字程度、第3学年ではその全てを書き、文や文章の中で使っている。
	文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	文章全体における段落の役割を理解している。	文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書いている。	【書写】字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書いている。	【書写】字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮して書いている。
	姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書いている。	【書写】漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。	【書写】目的や必要に応じて調和よく書き、漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解して書くとともに、読みやすく速く書いている。
	点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	文章の敬体と常体に注意して書いている。	毛筆を使用して、字配りよく書いている。		
		文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。			
		文字の大きさや配列に注意して書いている。			

③「読むこと」に関する領域

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年及び第3学年
国語への関心・意欲・態度	易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている	幅広いいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている	目的に応じた読書を通して、考えを広げたり深めたり、優れた叙述を味わったりするとともに、効果的な読み方を工夫しようとしている	学校図書館等を活用するなど、様々な種類の文章に応じた読み方をして内容を的確に理解しようとするとともに、進んで読書に親しみものの見方や考え方を広げようとしている	学校図書館等を積極的に活用するなど、様々な文章から目的や意図に応じて情報を集めようとするとともに、読書を生活に役立て自己を豊かにしようとしている
読む能力	自ら気に入った易しい読み物を読んでいる	いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる	自分の考えを広げたり深めたりするために、主体的な立場で図書資料を選んで読んでいる。	文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している	文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てている。
	時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる	自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる	目的や意図に応じて、文章の内容を短く要約したり伸ばしたりして、要旨をとらえて読んでいる。	書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など文章の展開に即して内容をとらえている	文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容を理解している
	場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる	場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる	叙述に基づいて、登場人物の心情や性格、考えなどを多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読んでいる	目的や必要に応じて要約している	文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、自分の表現に役立てている
	声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人の感じ方や考えとは違いがあることに気付いている	事象と感想・意見の関係を押さえ、それらについての自分の考えを明らかにしている	文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見とを読み分けている	文章の構成や展開、説明や描写などの表現の仕方や、文体など文章の特徴に注意して読んでいる
		自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。	自分に必要な情報を得るために学校図書館を利用するなどして、効果的な読み方をしている。	文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てている。	文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもてるようになる。
		相手や目的に応じて、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。		文章の展開を確かめて、主題を考えたり要旨をとらえたりしている。 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。	目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めている。 集めた情報を自分の表現に役立てている。
言語についての知識・理解・技能	はっきりした発音で読んでいる。	当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読み、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている	慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して読み、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)	仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。	相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応などについて考えたりして読んでいる。
	当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	語句に関する類別や構成、変化などについて理解し、語句の由来などに関心をもっている。	単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して読んでいる。	単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して読んでいる。
	文の中における主語と述語との関係を理解している。	国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。	理解したりするための語句について、辞書を利用して調べている。	話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解して読んでいる[漢字]。	共通語と方言の果たす役割などについて理解して読むとともに、敬語についての理解を深め文章中の敬語の使い方を理解している。
	言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。	【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読んでいる。	【漢字】第2学年では、第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読み、第3学年では第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。
			易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しんでいる。 文章にはいろいろな構成があることについて理解している。		

1. 国立政策研究所における評価規準の分割ルール

① 関心・意欲・態度についての表記・・・下線と二重線の内容が意欲や関心としてあるか推測してチェックする。

→文中において、意味が異なる箇所を分割することを前提にする。

② 能力についての表記・・・条件付き動詞が能力として備わっているか推測しチェックする。

→「条件付きの動詞」(例：知らせたいことを選び)は分割せず1セットで表記する。

→文中の「，」で切れている内容は、分割して表記する。

③ 知識・理解・技能についての表記・・・動詞（述語）が出来ているか否かの事実をチェックする。

④ 上記を原則として規準を分割表記するが、以下の点において考慮し作成している。

- ・スタッフの経験から、自閉症の特性を踏まえた分割表記を心がける。
- ・中学校の段階では、小学校のように細分化した分割で能力や技能等を図る必要はない。

2. 評価規準の具体的な分割のパターン

① 「条件、動詞」の文章構成の場合（条件が1つ、動詞が1つの場合）

・「条件」－「動詞」で条件は下線、動詞は二重線

② 「A 条件、B 条件、動詞」の文章構成の場合（条件が2つ、動詞が1つの場合）

・態度や能力、技能によって若干の使い分けがある。

・「A 条件、動詞」「B 条件、動詞」として分割する。

③ 「A 条件、B 条件、話したり聞いたり」の文章構成の場合（異なる動詞が2つある場合）

・中学校は、「話したり聞いたり」の異なる動詞をセットで考える

・「A 条件話したり聞いたり」「B 条件話したり聞いたり」として分割する。

・小学校は、内容によって自閉症の特性を踏まえた上で（CAチームで協議）分割する。

→「A、話したり」「B、話したり」「A、聞いたり」「B、聞いたり」の場合と

「A B、話したり」「A B、聞いたり」のような場合。

3. カリキュラムアセスメントシート(仮称)を担当教員一人でチェックすることを想定し、教示文を入れる。

4. 並び替えをして提示する。

・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域に関する各項目は、それぞれ「関心・意欲・態度」、「能力」「知識・理解・技能」とまとめて提示する。

2 カリキュラムアセスメントシート(仮称)案

上述した分割ルールに基づき、国語科のカリキュラムアセスメントシート(仮称)を作成した。紙面の関係上、以下に小学校1・2年生の案を提示する。自閉症のある児童生徒の国語科や算数科・数学科の習得の状態を測るシートは、ステップ1として、最初に国立教育政策研究所が作成した元の評価規準をそのままチェックし、その規準で習得ができていない場合は、元の規準を分割した分割規準をみていき、どこが習得できてどこが習得できていないのかを確認するやり方になっている。

実際のシートでは、「○、×、△、？」と4種類の記号で学習の習得状態を確認するように作成してある。「○は到達している」、「×はしていない」、「△は不十分である」、「？は不明」であることを示している。また、文中における一重線は条件、二重線は活動を示している。尚、実際のシートや他の学年のシートについては資料として掲載する。

上記の領域ごとには、それぞれ「関心・意欲・態度」、「能力」、「言語についての知識・理解・技能」の評価規準が示されている。以下に、評価の観点ごとに3つの領域の評価規準、並びに分割規準を順次提示する。尚、ゴシックで書かれた内容は、国立教育政策研究所の評価規準そのままであり、明朝体が分割した評価規準の着目点である。

①「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する関心・意欲・態度

A「話すこと・聞くこと」

AaE12-1

相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。

AaE12-1-1

相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。

AaE12-1-2

相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。

AaE12-3

相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。

AaE12-1-4

相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。

AaE12-1-5

相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。

B「書くこと」

BaE12-1

相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。

BaE12-1-1

相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。

BaE12-1-2

相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。

BaE12-1-3

相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。

C「読むこと」

CaE12-1

易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている

CaE12-1-1

易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている

CaE12-1-2

易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている

CaE12-1-3

易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている

②「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する能力

A「話すこと・聞くこと」 1

AbE12-1

知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。

AbE12-1-1

知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。

AbE12-1-2

知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。

A「話すこと・聞くこと」 2

AbE12-2

大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。

AbE12-2-1

大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。

A「話すこと・聞くこと」 3

AbE12-3

身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。

AbE12-4

身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。

AbE12-5

身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。

B「書くこと」 1

BcE12-1

相手や目的を考えながら、書いている。

BcE12-1-1

相手や目的を考えながら、書いている。

BcE12-1-2

相手や目的を考えながら、書いている。

B「書くこと」 2

BcE12-2

書こうとする題材に必要な事柄を集めている

B「書くこと」 3

BcE12-3

自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている

B「書くこと」 4

BcE12-4

事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている

BcE12-4-1

事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている

BcE12-4-2

事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている

B「書くこと」5

BcE12-5

文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している

BcE12-5-1

文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している

BcE12-5

文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している

C「読むこと」1

CdE12-1

自ら気に入った易しい読み物を読んでいる

C「読むこと」2

CdE12-2

時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる

CdE12-2-1

時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる

CdE12-2-2

時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる

C「読むこと」3

CdE12-3

場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる

CdE12-3-1

場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる

CdE12-3-2

場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる

C「読むこと」4

CdE12-4

声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。

CdE12-4-1

声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。

CdE12-4-2

声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。

③「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する言語についての知識・理解・

技能

A「話すこと・聞くこと」 1

AeE12-1

姿勢，口形などに注意して，はっきりした発音で話している。

AeE12-1-1

姿勢，口形などに注意して，はっきりした発音で話している。

AeE12-1-2

姿勢，口形などに注意して，はっきりした発音で話している。

A「話すこと・聞くこと」 2

AeE12-2

丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。

AeE12-2-1

丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。

A「話すこと・聞くこと」 3

AeE12-3

文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。

AeE12-3-1

文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。

AeE12-3-1

文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。

B「書くこと」 1

BeE12-1

平仮名を正しく書いたり，片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。

BeE12-1-1

平仮名を正しく書いたり，片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。

BeE12-1-2

平仮名を正しく書いたり，片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。

B「書くこと」 2

BeE12-2

第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)

B「書くこと」3

BeE12-3

第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第2学年)

BeE12-3-1

第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第2学年)

BeE12-3-2

第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第2学年)

BeE12-3-3

第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第2学年)

B「書くこと」4

BeE12-4

長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。

BeE12-4-1

長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。

BeE12-4-2

長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。

B「書くこと」5

BeE12-5

句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。

BeE12-5-1

句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。

BeE12-5-2

句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。

B「書くこと」6

BeE12-6

文の中における主語と述語との関係に注意して書いている

B「書くこと」7

BeE12-7

姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。

B「書くこと」 8

BeE12-8

点画の長短，接し方や交わり方などに注意して，筆順に従って文字を正しく書いている。

BeE12-8-1

点画の長短，接し方や交わり方などに注意して，筆順に従って文字を正しく書いている。

BeE12-8-1

点画の長短，接し方や交わり方などに注意して，筆順に従って文字を正しく書いている。

C「読むこと」 1

CeE12-1

はっきりした発音で読んでいる。

C「読むこと」 2

CeE12-2

平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。

C「読むこと」 3

CeE12-3

当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。

C「読むこと」 4

CeE12-4

文の中における主語と述語との関係を理解している。

C「読むこと」 5

CeE12-5

言葉遣いに気を付けて読むとともに，敬体で書かれた文章などの文体を意識している。

CeE12-5-1

言葉遣いに気を付けて読むとともに，敬体で書かれた文章などの文体を意識している。

CeE12-5-2

言葉遣いに気を付けて読むとともに，敬体で書かれた文章などの文体を意識している。

3 カリキュラムアセスメントシート(仮称)の使い方

1) カリキュラムアセスメントシート(仮称)の実施手順

カリキュラムアセスメント(仮称)は、特別支援学級の担当教員が、その年度に指導した国語科や算数科・数学科について、自閉症のある児童生徒の学習の習得状況を把握することにより、次年度の教育課程の編成に役立てることを想定して作成している。

以下にその手順を構造図とともに解説する。

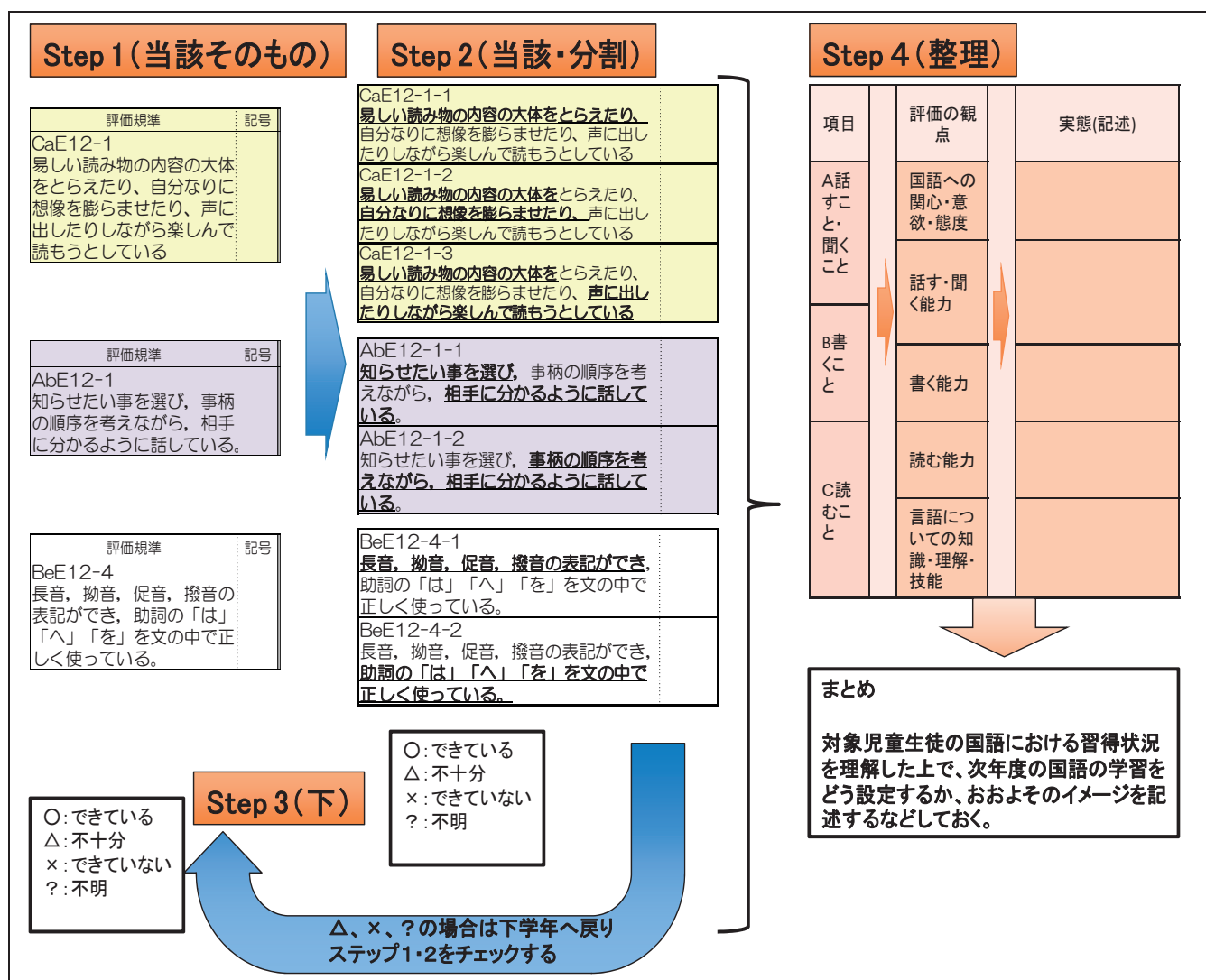


図2 カリキュラムアセスメント(仮称)の手順図

①ステップ1の実施(「当該学年の評価規準」をチェックする)

ステップ1は、国立教育政策研究所が作成した評価規準そのものである。例えば、対象の児童生徒が小学校4年生であるなら、当該学年の評価規準(小学校第3学年・第4学年)から開始する。最初のチェックは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域に関する関心・意欲・態度の項目であり、次いで3領域の能力に関する項目、最後に3領域の言語についての知識・理解について「○、△、×、?」の記号でチェックをする。

ステップ1で全ての評価規準に○がついた場合は、当該学年の国語科の学習内容が全て習得されていると理解する。

②ステップ2の実施（「当該学年の評価規準を分割したもの」をチェックする）

ステップ2は、ステップ1でチェックした評価規準を分割したものである。ステップ1で×がついた評価規準の内容は、分割した評価規準の内容で再チェックし、どの部分で習得に至っていないか把握することを意図としている。このステップでも、「○、△、×、？」の記号でチェックをする。

③ステップ3の実施（「下学年の評価規準」をチェックする）

ステップ3は、当該学年での学習の習得状況にばらつきがある場合、下学年の評価規準まで下がり習得状況の確認をすることを意図している。このステップでも、「○、△、×、？」の記号でチェックをする。

④ステップ4の実施（学習の習得状況を整理する）

ステップ4は、対象の児童生徒の国語科の学習内容の習得状況について、ステップ1～ステップ3までのチェックから読み取れることを記述して整理することを意図している。

このような教科学習の習得状況を確認するプロセスを通して、自閉症のある児童生徒の国語科の学習に関する実態を理解するとともに、次年度の教育課程の編成の際に、国語科の学習時間数や学習内容のセレクトと指導の重点化を考えることが可能になる。

2) 自閉症のある児童生徒の教育課程の編成について

自閉症・情緒障害特別支援学級における特別の教育課程の編成に関しては、通常教育課程を基本として、特別支援学校の学習指導要領を参考にして内容等を取り入れることができる。しかし、知的障害や心因性の情緒障害と異なる自閉症教育に関しては、その障害特性に対応した自閉症・情緒障害特別支援学級における教育課程のスタンダードは存在していない。

平成21年度から開始している文部科学省の「自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業」(2009)では、現在、11の自治体22校で委託研究を進めている。この研究の目的は、「小・中学校等において、自閉症の特性に応じた教育課程の編成、自閉症の児童生徒一人一人に対応した指導内容・方法等の工夫など教育課程の在り方について実践研究を行う」ことにある。実践研究を行っている22校の内、11校が小・中学校の特別支援学級であることから、その成果と課題等を含めて本研究にも役立てていく予定である。

さて、自閉症・情緒障害特別支援学級の自閉症に対応した特別の教育課程を編成するにあたり、本研究で作成したカリキュラムアセスメント(仮称)を利用した教育課程の編成に関す

る構造についてまとめてみる(図2・3参照)。

そもそも教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、児童生徒の心身の発達に応じ、教育内容を授業時数と関連させて総合的に組織する学校の教育計画である。特別支援学級の教育課程の編成においては、授業時数は小・中学校の各学年に合わせ、教育内容の一部に特別支援学校の学習指導要領を参考にした内容を取り入れることが可能である。具体的には、①自立活動の指導を取り入れることができる、②下学年の教科を取り入れることができる、③知的障害特別支援学校の各教科を取り入れることができる、④各教科の内容の一部を取り扱わなくてもよいなどがある。

本研究の対象は、自閉症・情緒障害特別支援学級の現行の就学の基準に示されている知的発達に遅れがない、あるいは軽度で自閉症がある児童生徒であり、小・中学校の学校生活への適応が困難で特別な指導が必要とされている児童生徒である。したがって、特別の教育課程の編成に関しては、①自立活動の指導を取り入れることができる、②下学年の教科を取り入れることができる、④各教科の内容の一部を取り扱わなくてもよいなどが考えられる。

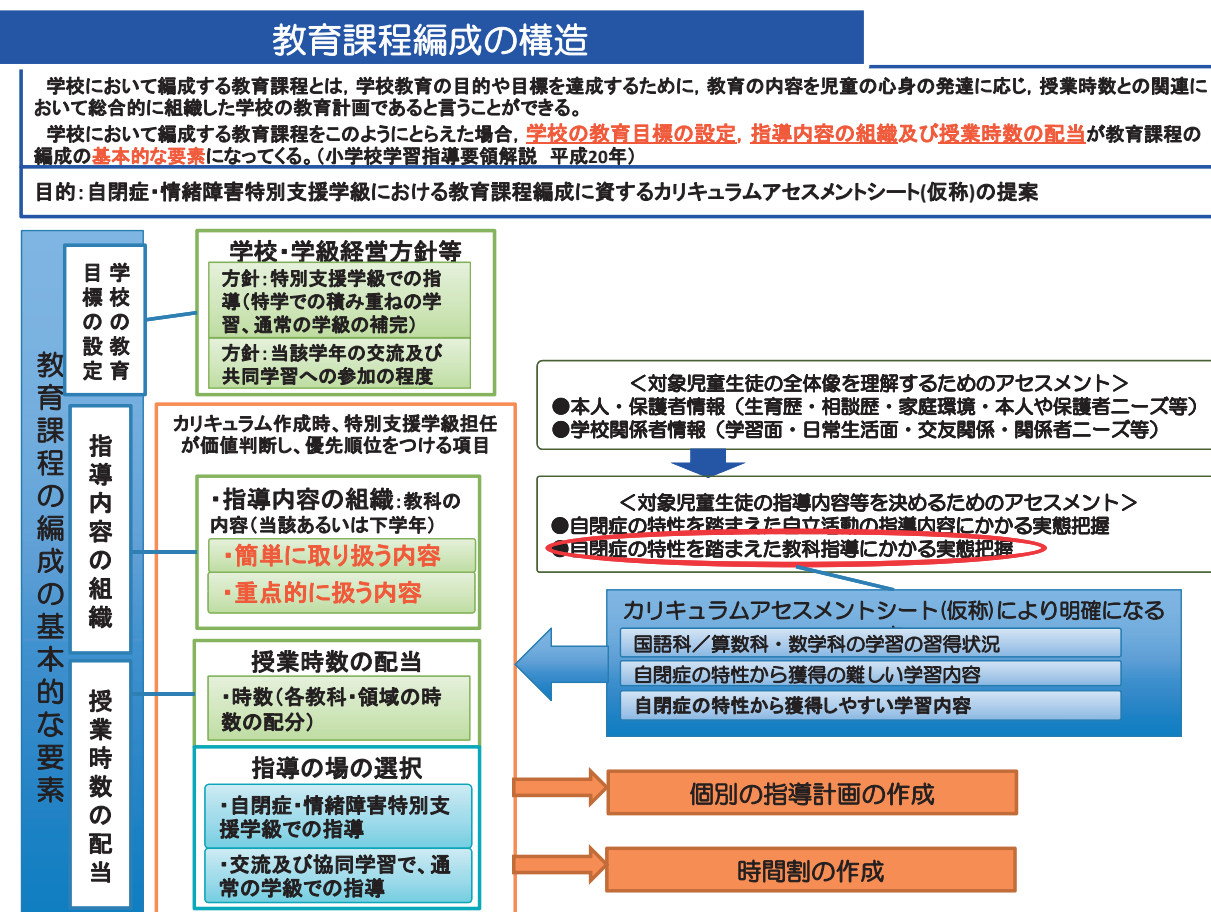


図3 自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程編成の構造

特別支援学級の教育課程を編成するにあたり、自閉症のある児童生徒に対し様々な視点から実態把握を行うが、特に自立活動の指導内容の設定においては、自立活動を指導する背景

要因をアセスメントしたうえで自立活動の指導内容を決定する。同様に、教科指導においても、カリキュラムアセスメントシート(仮称)から習得状態を把握して、国語科や算数科・数学科の指導内容を重点的に指導する内容と、比較的軽い扱いとする内容を精査し組織する必要がある。その際、総授業時数との関連から、特別支援学級で国語科や算数科・数学科の授業時数も検討する必要がある。そのような手順を踏んだ後に、教育課程を編成し時間割を決めて個別の指導計画を作成することが必要となる。

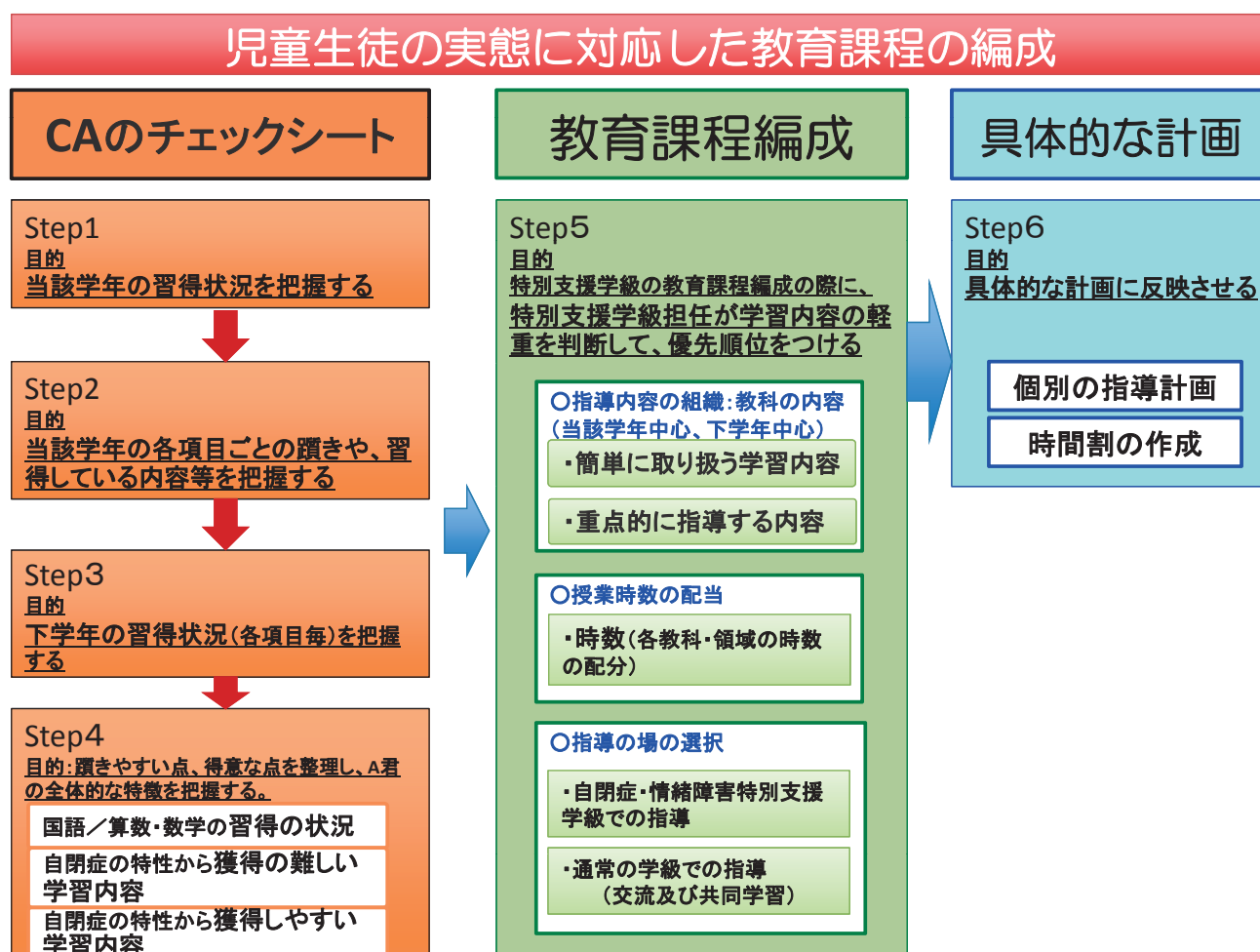


図4 国語科、算数科・数学科におけるカリキュラムアセスメント(仮称)を利用した教育課程編成の手順

<文献>

- ・国立教育政策研究所(2002)「評価規準、評価方法の工夫改善のための参考資料－評価規準、評価方法等の研究開発(報告)－」
- ・国立教育政策研究所(2006)「学習評価の工夫改善に関する調査研究」
- ・国立教育政策研究所(2010)「評価規準の作成のための参考資料(小学校)」
- ・国立教育政策研究所(2010)「評価規準の作成のための参考資料(中学校)」
- ・岡山県教育委員会(2009)「平成 21 年度自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業 中間報告書」

<資料>

国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の一覧

- ・小学校 1・2 年生
- ・小学校 3・4 年生
- ・小学校 5・6 年生
- ・中学校 1 年生
- ・中学校 2・3 年生

第Ⅳ章 研究協力校における国語科カリキュラムアセスメントシート

(仮称)を活用しての実態把握

1 研究協力校における自閉症・情緒障害特別支援学級の現状

本研究では、8校の小・中学校における自閉症・情緒障害特別支援学級担当教員の協力を得て実践を進めている。8校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒数ならびに、本研究の対象となる児童生徒の概要を以下に示す。

表1 研究協力校における自閉症・情緒障害特別支援学級及び対象の児童生徒の概要

	A小学校	B小学校	C小学校	D小学校	E小学校	F中学校	G中学校	H中学校
学校規模(児童生徒数)	510人	270人	540人	774人	295人	400人	347人	670人
自閉症・情緒障害 特別支援学級 在籍児童生徒数 (自閉症の児童生徒数)	12人 (10人)	3人 (1人)	7人 (5人)	11人 (9人)	3人 (2人)	1人 (1人)	6人 (5人)	5人 (5人)
研究の対象としている 児童生徒の概要	①小3男児 PDD 境界線	②小3男児 高機能自閉症 標準	③小1男児 PDD 境界線 ④小3男児 AS 標準	⑤小3男児 AS 標準 ⑥小4男児 AS 標準	⑦小2男児 PDD 標準	⑧中3男子 PDD 軽度	⑨中2男子 PDD 標準	⑩中1女子 自閉症 標準
担当教員が実践する 主な教科	算数 道徳	国語	算数 道徳	算数 国語	国語 算数	数学	国語 数学	国語

*PDDは広汎性発達障害の略
*ASはアスペルガー症候群の略

研究の対象である児童生徒は、小1から中3までの10人で、自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、高機能自閉症といった診断名がついている。また、知的発達の程度は、標準から境界線知能、軽度である。研究協力校の担当教員は、対象の児童生徒に対し、自閉症・情緒障害特別支援学級で国語科や算数科・数学科の教科指導を行っているが、対象児童生徒の知的発達の程度から、当該学年もしくは下学年対応の目標や内容に応じて指導を行っている。

今年度を実施した第1回目の研究協力者会議(2010/8/17実施)では、各研究協力校の担当教員から、学級での教科指導において日頃から悩んでいること(紙面に記載)を報告してもらった。ここでは、国語科の指導に関する情報をそのまま示す。

A小学校担当教員：「児童の実態を基に、当該学年の教科書を併用して指導をしている。特に文学作品・説明文では、目標に迫るための方策について苦慮している。どんな力をつけるために、どの教材を用いて、どのような単元構成をすれば良いのか。指導目標の系統性が明確でなく、自分自身、最も不安を感じている教科である。」

B 小学校担当教員：「国語では、心情を想像したり、比喩的表現を理解したりするのが難しい。また興味関心も広がらず、対象児童の潜在的な国語の力を図る方法を知りたい。」

C 小学校担当教員：「自閉症を伴う児童の認知特性は多様であるため、児童一人一人の学習の積み重ねが難しい。よって、一人一人の学習内容のアセスメントをした上での系統的な指導が必要であると感じているが、なかなか難しく十分な対応（教材・教具の作成、準備も含めて）ができていない。また、学習内容や到達度の引継ぎが主観的になり、担任が変わるとうまく移行できない場合も多い。」

D 小学校担当教員：「本学級の場合、学年相応の教科指導が適切な児童が多い。児童も学ぶ意欲はある。個々の特性に応じた指導の仕方（視覚的なパターンの使用、下学年の内容に戻る、はしょって次に進み後からまた取り組むなど）を日々試みているが、その判断が適切なのか不安に思いながら、手探りで取り組んでいるのが実際である。」

E 小学校担当教員：「国語の学習では、作文や日記を書くときに、心情理解が難しいため 1 日の流れを書いて終わりである。作文や日記の指導について悩んでいる。」

F 中学校担当教員：「教授されたことをそのまま学習することは得意であるが、既習の課題を応用して考えることは苦手である。同じ課題であっても、出題のされ方が違うだけで混乱するなど、履修しにくい内容と瞬時に理解できる内容にばらつきがあり、小・中学校の学年ごとに示されている教育課程にそって学習することが難しい。」

G 中学校担当教員：「(国語科指導だけではない)交流学級での学習と、自閉症・情緒障害特別支援学級での学習のバランスを一人一人に調整するため、違う教科を同じ授業時間で教えることになるなど、調整が難しい。また、基本的に自己肯定感が低く、やってもできないと思って入学してくる生徒が多く、やってみようと思わせるまでに時間がかかる。」

H 中学校担当教員：「言語性能力の低い生徒への国語科の指導について悩んでいる。特に目標設定から評価をするまでが難しい。」

上述したように、8 校の担当教員は、国語科の指導を含め教科指導に関する様々な課題を抱えている実態が明らかになった。全体的な意見として、自閉症・情緒障害特別支援学級には、知的発達度が異なる自閉症スペクトラム障害(連続体という意味で敢えて使用)のある児童生徒が在籍していることや、異学年で構成されているため、一人一人の自閉症のある児童生徒に対する国語科や算数科・数学科などの教科指導が十分に行われていない現状があった。その背景として、①自閉症の特性による教科間でのアンバランスさと、教科内でのアンバランスさがあること、②教科の指導内容を計画するにあたり、各教科の実態把握のためのツールがないため、実態把握が十分でないこと、③総授業時間数との関係から、教科内において重点化する指導内容と簡略化する内容の見極めが難しいこと、④中学校において、自閉症・情緒障害特別支援学級における教科担任制が十分に機能していないこと、などが課題として整理された。

2 研究対象児童生徒の国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の活用

以下に研究の対象となっている児童生徒について、担当教員から国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)を用いてチェックをしてもらった。その結果を対象児童生徒ごとに一覧にまとめた。

第Ⅲ章 3でも記述したように、国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の手順としては、ステップ1において、各対象児童生徒の当該学年の評価規準からチェックし、その後ステップ2において当該学年の評価規準を分割したものをチェックし、ステップ3で下学年の評価規準等をチェックしてもらっている。その結果をステップ4として整理したものである。

なお、カリキュラムアセスメントシート(仮称)を作成する過程で、協力校の担当教員から意見等をもらった結果、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の3領域のうち、各領域の「国語への関心・意欲・態度」に関しては、最初にまとめて提示している。その理由として、「関心・意欲・態度」の評価については、担当教員が対象児童生徒の実態を想定し、意欲や関心について推測する必要があるため、技能や能力のチェックと混在しない方が評価しやすいといった意見があったためである。

ここでは、A小学校のみステップ1及びステップ2の具体例を示し、その結果をまとめたステップ4を提示する。紙面の都合上、他校の対象児童生徒については、ステップ1と2（国立教育政策研究所作成の当該学年評価規準、分割評価規準）、及びステップ3（国立教育政策研究所の下学年評価規準、分割評価規準）をまとめた、ステップ4のみを提示する。

A 小学校：対象児童①（小 3 男児・PDD・境界線知能） ステップ 1・2（当該学年評価）

国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称) 小学校 第3学年及び第4学年

＜対象の児童生徒の「国語への関心・意欲・態度」について＞

児童生徒の様子から、実際にはできていなくても、関心や意欲があると推測できる内容には○、ないものに×、部分的にあると推測できる場合は△、推測できない場合は？を付けてください。

A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。	×	AaE34-1-1 <u>相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、</u> 話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。	×	AaE34-1-2 相手や目的に応じ、 <u>調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、</u> 話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。	×	AaE34-1-3 <u>相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、</u> 進んで話し合おうとしている。	×
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている	×	BaE34-1-1 <u>相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている</u>	×	BaE34-1-2 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、 <u>よいところを見付けたりしようとしている。</u>	×		
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaE34-1 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている	×	CaE34-1-1 <u>幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている</u>	×	CaE34-1-2 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、 <u>一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている</u>	×		

＜対象児童生徒の「話す・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に関する「能力」について＞

児童生徒の様子から、該当する内容に関しての能力が備わっていると思われる場合は○、ない場合は×、部分的にある場合は△、わからない場合は？を付けてください。

A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	×	AbE34-1-1 <u>伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。</u>	×	AbE34-1-2 伝えたい事を選び、 <u>自分の考えが分かるように筋道を立てて、</u> 相手や目的に応じた <u>適切な言葉遣いで話している。</u>	×	AbE34-1-3 伝えたい事を選び、 <u>自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。</u>	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている	△	AbE34-2-1 <u>話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている</u>	×	AbE34-2-2 話の中心に気を付けて聞き、 <u>自分の感想をまとめている</u>	△		
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている	×	AbE34-3 <u>互いの考えの相違点や共通点を考えながら、</u> 進んで話し合っている	×	AbE34-3 互いの <u>考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている。</u>	×		
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている	×						
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている	×	BcE34-2 <u>書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている</u>	×	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり <u>選択したりしている。</u>	×		
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている	×						
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書こうとする事の内容を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書いている	×	BcE34-4-1 <u>書こうとする事の内容を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書いている。</u>	×	BcE34-4-2 書こうとする事の内容を明確にしながら、 <u>段落と段落との続き方に注意して書いている</u>	×		
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。	△	BcE34-5-1 <u>文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。</u>	×	BcE34-5-2 文章のよいところを見付けたり、 <u>間違いなどを正したりしている。</u>	△		
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる	△						
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる	×	CdE34-2-1 <u>自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる</u>	×	CdE34-2-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、 <u>中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる。</u>	×		
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の変化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる	×						
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている	×						
C読むこと	d読む能力	CdE34-5 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。	×	CdE34-5-1 <u>自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。</u>	×	CdE34-5-2 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、 <u>必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。</u>	×		
C読むこと	d読む能力	CdE34-6 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。	△						

＜対象児童生徒の「言語についての知識・理解・技能」について＞

児童生徒の様子から、言語に関する知識や理解、技能がある場合は○、ない場合は×、部分的にある場合は△、わからない場合は？を付けてください。

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	△	AeE34-1-1 <u>その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。</u>		AeE34-1-2 その場の状況や <u>目的に応じた適切な音量や速さで話している。</u>	△
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	×				
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	×				
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-4 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。	×	AeE34-4-1 <u>文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。</u>	×	AeE34-4-2 <u>文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。</u>	×
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-5 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。	×	AeE34-5-1 <u>相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。</u>	×	AeE34-5-2 相手や <u>その場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。</u>	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	△	BeE34-1-1 <u>当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。</u>	△	BeE34-1-2 <u>当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。</u>	△
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	△				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)	×				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	×	BeE34-4-1 <u>送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。</u>	×	BeE34-4-2 送り仮名に注意して書いている。・ <u>句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。</u>	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	×				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。	×				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	×	BeE34-7-1 <u>文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。</u>	×	BeE34-7-2 文と文との意味のつながりを考えながら、 <u>指示語や接続語を使っている。</u>	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	×				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-9 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。	×				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-10 文字の大きさと配列に注意して書いている。	×				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-11 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。	×	BeE34-11-1 毛筆を使用して、 <u>点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。</u>	×	BeE34-11-2 毛筆を使用して、 <u>点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。</u>	×
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	△				
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)	△				
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	×				
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。	×	CeE34-4-1 <u>国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。</u>	×	CeE34-4-2 <u>国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。</u>	×
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	×				

対象児童①は、ステップ1の当該学年の評価規準がほぼ達成されていないことから、次にステップ2として下学年の評価規準について確認をした。以下はその結果である。

A 小学校：対象児童①（小 3 男児・PDD・境界線知能） ステップ3（下学年評価）

国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称) 小学校 第1学年及び第2学年

＜対象の児童生徒の「国語への関心・意欲・態度」について＞

児童生徒の様子から、実際にはできていないけれども、関心や意欲があると推測できる内容には○、ないものに×、部分的にあると推測できる場合は△、推測できない場合は？を付けてください。

A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。	×	AaE12-1-1 <u>相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、</u> 大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。	×	AaE12-1-2 相手に応じ、 <u>経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、</u> 大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。	△	AaE12-3 相手に応じ、経験した事などについて、 <u>事柄の順序を考えながら話したり、</u> 大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。	△
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。	×	BaE12-1-1 <u>相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。</u>	×	BaE12-1-2 <u>相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。</u>	×	BaE12-1-3 <u>相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。</u>	△
C読むこと	国語への関心・意欲・態度	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている。	△	CaE12-1-1 <u>易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている。</u>	△	CaE12-1-2 <u>易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている。</u>	△	CaE12-1-3 <u>易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている。</u>	○

＜対象児童生徒の「話す・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に関する「能力」について＞

児童生徒の様子から、該当する内容に関しての能力が備わっていると思われる場合は○、ない場合は×、部分的にある場合は△、わからない場合は？を付けてください。

A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	×	AbE12-1-1 <u>知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。</u>	×	AbE12-1-2 <u>知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。</u>	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	△	AbE12-2-1 <u>大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。</u>	△		
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。	△	AbE12-4 <u>身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。</u>	△	AbE12-5 <u>身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。</u>	△
B書くこと	c書く能力	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	×	BcE12-1-1 <u>相手や目的を考えながら、書いている。</u>	×	BcE12-1-2 <u>相手や目的を考えながら、書いている。</u>	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	△				
B書くこと	c書く能力	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×				
B書くこと	c書く能力	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	×	BcE12-4-1 <u>事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている。</u>	△	BcE12-4-2 <u>事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている。</u>	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	×	BcE12-5-1 <u>文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している。</u>	△	BcE12-5 <u>文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している。</u>	×
C読むこと	d読む能力	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる	○				
C読むこと	d読む能力	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる	△	CdE12-2-1 <u>時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる。</u>	△	CdE12-2-2 <u>時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる。</u>	△
C読むこと	d読む能力	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる	△	CdE12-3-1 <u>場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる。</u>	△	CdE12-3-2 <u>場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる。</u>	△
C読むこと	d読む能力	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	△	CdE12-4-1 <u>声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。</u>	○	CdE12-4-2 <u>声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。</u>	△

<対象児童生徒の「言語についての知識・理解・技能」について>

児童生徒の様子から、言語についての知識や理解、技能がある場合は○、ない場合は×、部分的にある場合は△、わからない場合は？を付けてください。

A話す こと・ 聞く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした 発音で話している。	△	AeE12-1-1 <u>姿勢、口形などに注意して、 はっきりした発音で話している。</u>	△	AeE12-1-2 姿勢、口形などに注意して、 <u>はっきりした発音で話している。</u>	○
A話す こと・ 聞く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を 付けて話している。	△	AeE12-2-1 <u>丁寧な言葉と普通の言葉の違い に気を付けて話している。</u>	△		
A話す こと・ 聞く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注 意して話したり聞いたりしている。	△	AeE12-3-1 <u>文の中における主語と述語との 関係に注意して話したり聞いたり</u> している。	△	AeE12-3-1 <u>文の中における主語と述語との 関係に注意して話したり聞いたり</u> している。	△
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語 文や文章の中で正しく使ったりしてい る。	○	BeE12-1-1 <u>平仮名を正しく書いたり、片仮 名で書く語を文や文章の中で正し く使ったりしている。</u>		BeE12-1-2 平仮名を正しく書いたり、 <u>片仮名 で書く語を文や文章の中で正し く使ったりしている。</u>	
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書 いている。(第1学年)	○				
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-3 第1学年に配当されている漢字を書き、 文や文章の中で使うとともに、第2学年に 配当されている漢字を漸次書いている。 (第2学年)	○	BeE12-3-1 <u>第1学年に配当されている漢字 を書き、文や文章の中で使うとと もに、第2学年に配当されている 漢字を漸次書いている。(第2学 年)</u>		BeE12-3-2 <u>第1学年に配当されている漢字を 書き、文や文章の中で使うとと もに、第2学年に配当されている 漢字を漸次書いている。(第2学 年)</u>	BeE12-3-3 第1学年に配当されている漢字を 書き、文や文章の中で使うとと もに、 <u>第2学年に配当されている 漢字を漸次書いている。(第2 学年)</u>
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、 助詞の「は」「へ」を文の中で正しく 使っている。	○	BeE12-4-1 <u>長音、拗音、促音、撥音の表記 ができ、助詞の「は」「へ」 「を」を文の中で正しく使ってい る。</u>		BeE12-4-2 長音、拗音、促音、撥音の表記が でき、 <u>助詞の「は」「へ」 「を」を文の中で正しく使ってい る。</u>	
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を 理解して文章の中で使っている。	△	BeE12-5-1 <u>句読点の打ち方やかぎ(「」) の使い方を理解して文章の中で 使っている。</u>	△	BeE12-5-2 <u>句読点の打ち方やかぎ(「」) の使い方を理解して文章の中で 使っている。</u>	△
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注 意して書いている	△				
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書 いている。	△				
B書く こと	e言語についての知識・ 理解・技能	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注 意して、筆順に従って文字を正しく書い ている。	△	BeE12-8-1 <u>点画の長短、接し方や交わり方 などに注意して、筆順に従って文 字を正しく書いている。</u>	△	BeE12-8-2 点画の長短、接し方や交わり方な どに注意して、 <u>筆順に従って文字 を正しく書いている。</u>	△
C読む こと	e言語についての知識・ 理解・技能	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○				
C読む こと	e言語についての知識・ 理解・技能	CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○				
C読む こと	e言語についての知識・ 理解・技能	CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読 んでいる。	○				
C読む こと	e言語についての知識・ 理解・技能	CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理 解している。	△				
C読む こと	e言語についての知識・ 理解・技能	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬 体で書かれた文章などの文体を意識して いる。	△	CeE12-5-1 <u>言葉遣いに気を付けて読むとと もに、敬体で書かれた文章などの 文体を意識している。</u>	○	CeE12-5-2 言葉遣いに気を付けて読むとと もに、 <u>敬体で書かれた文章などの 文体を意識している。</u>	△

対象児童①の下学年の評価規準においては、言語についての知識・理解・技能について達成されている内容も明らかになってきたが、国語への関心・意欲・態度や書く能力などは難しい実態が理解できた。以下に、当該学年の評価規準と下学年の評価規準を合わせて、ステップ4として記述によってまとめた表を示す。

A 小学校：対象児童①（小 3 男児・P D D・境界線知能） ステップ 4

（ A 小 ）学校 対象児童生徒の国語科における達成度評価

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準		達成度	下学年(1年・2年)の評価規準		達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話		×	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりすると		×	・話すことや聞くことに関する関心や意欲は当該学年並びに下学年の評価規準に達してはいない。 ・書くことに関する関心や意欲態度は、当該学年並びに下学年の評価規準に到達していないように思われる。 ・1～2年生程度の読み物であれば、特に起承転結の明確なストーリーがある本は、意欲的に読もうとしている。
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている		×	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。		×	
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaE34-1 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている		×	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている		△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。		×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。		×	・当該学年及び下学年の評価規準に関しては、特に相手を意識して目的的に話題に沿って話すことは難しい。 ・身近なことや相手の考えを理解しながら話をしたり聞いたりすることが難しい。
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている		△	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。		△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている		×	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。		△	
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている		×	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。		×	・書く事柄の情報を得たり、順序よく書くことや、書いた文を読み直すなどは不十分ではあるが、出来ている場面も見られるが、相手や目的を想定しながら適切な文を書くことが出来ていない。 ・当該学年並びに下学年の評価規準は達成されていない。
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている		×	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている		△	
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている		×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている		×	
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書こうとする事の中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書いている		×	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている		×	
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。		△	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している		×	
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる		△	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる		○	・下学年内容であっても、言語や内容の意味を十分理解して読めているわけではない。 ・文章の内容を理解して読み取ることは1～2年生程度でも十分に達成しているわけではない。特に状況を把握することや、叙述に即して想像して読み取ることが難しい。
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる		×	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる		△	
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる		×	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる		△	
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている		×	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。		△	
C読むこと	d読む能力	CdE34-5 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。		×				
C読むこと	d読む能力	CdE34-6 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。		△				

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	△
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	×
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	×
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-4 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。	×
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-5 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。	×

AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	△
AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	△
AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	△

・当該学年の話すことや聞くことに関する領域において、言語事項の技能や知識等については、獲得されていない状況である。
・下学年においての言語事項に関しては、十分に獲得されている状態ではないが、できることもあるといった状況である。

B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字	△
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	△
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-9 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-10 文字の大きさや配列に注意して書いている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-11 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。	×

BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	○
BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○
BeE12-3 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年	○
BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	○
BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	△
BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	△
BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	△
BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いて	△

・当該学年の漢字表記に関しては不十分であるが、平仮名やカタカナ、促音や拗音等の表記、1～2年生程度の漢字の表記は問題ない。
・作文等の文章表記に関しては、句読点や「」の使い方、主述の関係を明確にして書くなどは完全ではないが少しずつ出来るようになっている。しかし、意味段落を想定しての改行や、内容に応じた文章の敬体に注意して記述するなどは課題が多く残っている。

C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	△
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)	△
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	×
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。	×
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	×

CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○
CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○
CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○
CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	○
CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	△

・3年生の当該学年の漢字の読み書きは不十分であるが、1～2年生程度の漢字は誤りなく読むことが出来る。
・下学年程度の内容であれば、音読や黙読はスムーズに読むことが可能であるが、言語や内容の意味を十分理解して読めているわけではない。

B 小学校：対象児童②（小 3 男児・高機能自閉症・標準） ステップ 4

(B小)学校 対象児童生徒の国語科における達成度評価

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準	達成度	下学年(1年・2年)の評価規準		達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうしたり、話の中心に気を付けて聞こうしたり、進んで話し合おうとしている。	×	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おう		△	
		BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている	×	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。		○	
		CaE34-1 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている	×	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている		△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。		×	・話す聞く能力については、当該学年ならびに下学年においても、論理的に筋道をたてて話したり、状況に適した言葉遣いで話したり、また、相手の考えや中心となる事柄を聞き取る能力が十分に養われていないようである。
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている	×	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。		×	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている	△	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。		△	
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている	○	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。		○	・下学年における書く能力は備わっているようであるが、当該学年における書く能力では、特に書く内容の中心的事柄を把握して書くことが難しいようである。
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている	△	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている	×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書こうとする事の中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書いている	×	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書いている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。	△	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる	×	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる		○	・読むことに関しての能力では、概ね下学年の力は備わっているようであるが、当該学年の力として、相手や状況に応じて目的的に読む力や、想像して読む力が十分に育っていないようである。
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる	○	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の変化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる	△	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる		△	
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている	△	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-5 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。	△				
C読むこと	d読む能力	CdE34-6 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。	△				

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	△	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	○	・話すこと聞くことに関する領域では、当該学年の言語についての技能等は、特に状況に応じた適切な言語で話すことや、文と文のつながりを意識して聞く際の言語への注意が不十分であるように思える。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	○	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	×	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-4 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。	△			
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-5 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。	×			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	○	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	○	・書くことに関する領域での言語の知識や技能等は、1～2学年の学習に関しては習得されていると思われる。しかし、当該学年では、段落の意味を理解し適切な改行の記述が習得されていないようである。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	○	BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)	○	BeE12-3 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書いている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	△	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	○	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。	×	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	○	BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	○	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-9 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。	○			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-10 文字の大きさや配列に注意して書いている。	×			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-11 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。	○			
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○	・読むことに関する領域の言語の知識や技能等では、当該学年・下学年ともに十分習得されていると思われる。
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)	○	CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	○	CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。	○	CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	○	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	○	

C小学校：対象児童③（小1 男児・PDD・境界線知能） ステップ4

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準		達成度	(1年・2年)の評価規準		達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。			AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おう	△		国語に関する関心・意欲・態度は高い。 経験したことを話したり、話の中心に気を付けて聞くことはできるが、相手や目的に応じて対応することが特に難しい。
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている			BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。	×		
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaE34-1 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている			CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている	○		
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。			AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	×		自分にとって大事なことと思う事は聞いているが、大事なことを落とさないようにとの配慮はできていない。 話す順序を考えたり、相手にわかるように話を組み立てて話すことは苦手である。
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている			AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	△		
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている			AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。	△		
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている			BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	×		この内容の指導はまだしていない。 本人が思っていることを口頭作文して、それを教師が記述して視写している。
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている			BcE12-2 書くこととする題材に必要な事柄を集めている	×		
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている			BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×		
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書くこととする事の中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書いている			BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	×		
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。			BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	×		
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる			CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる	○		
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる			CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる	○		
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の変化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる			CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる	○		
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている			CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	○		
C読むこと	d読む能力	CdE34-5 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。						
C読むこと	d読む能力	CdE34-6 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。						

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。		AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	△	本人が自信を持っている内容は話すことができるが、題材によっては口ごもってしまう。話し方は丁寧だが、場や相手、内容に応じた使い分けはできない。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。		AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	×	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。		AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-4 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。				
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-5 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。		BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	△	ひらがなは正しく書くことができる。カタカナはまだひらがなと混同してしまう場合がある。 学年相応の漢字への興味は高く、読みはできる(学年以上)。漢字を書くことは、書き順が違ったり正しく書けないこともある。 長音、拗音、促音、撥音の表記、送りがな、句読点(意識はできているが)にも誤りが多い。 指示語や接続語は今後の課題である。 文字の形、大きさ、配列などへの意識は高い。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。		BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)			×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。		BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。		BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。		BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。		BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。		BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-9 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-10 文字の大きさや配列に注意して書いている。				
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-11 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。				
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○	ひらがな、カタカナ、学年相応の漢字は読める。 主語・述語の関係は理解して読んでいる。 敬体で書かれた文章への意識は低い。
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)		CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。		CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。		CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。		CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	×	

C小学校：対象児童④（小3男児・PDD・境界線知能） ステップ4

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準	達成度	下学年(1年・2年)の評価規準	達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。	△	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おう	○	国語に関する関心・意欲・態度は高まってきている。読み物への興味関心は高いが、内容を読み取るまで深く学習は進んでいない。経験したことを話したり、話の大まかなところは聞くことはできるが、相手や目的に応じて対応することが特に難しい。
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている	×	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。	○	
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaE34-1 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている	△	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている	○	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	×	自分の思いで一方的に話すことが多い。相手や場に応じた会話では、教師が本人に気持ちを聞きだし、提示する見本を模倣することで会話が成立することが多い。大事なことを気をつけて聞くことはできるが、自ら進んで考えをまとめはなすことは少ない。話を聞いた後、教
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている	×	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている	×	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。	△	
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている	×	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	×	自分の書いた文字や文章を読み返し間違いを直すことはしている。
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている	×	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	×	
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている	×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×	
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書こうとする事を中心を明確にししながら、段落と段落との続き方に注意して書いている	×	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	×	
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。	×	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる	×	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる	○	自分で見たい本を自分で選んで読んでいることは多く見られる。今までの国語の学習量が足りないため、知らない語句が多く、興味を持っていても読むことができない場合が多くみられる。また、場面の変化情景を表している叙述を基にして想像して読むことは苦手である。
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる	×	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる	○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の変化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる	×	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる	△	
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている	×	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-5 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。	×			
C読むこと	d読む能力	CdE34-6 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。	×			

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	×	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	△	話をするときの姿勢は悪く注意を受けることが多い。注意を受けると姿勢を正して話しをすることができる。接続語を使って話すことは難しいが、相手の話の中に接続語が含まれても意味を理解することはできる。相手や状況に応じて適切な音量や速さ、丁寧な言葉遣いなどが難しいが、教師の指示を受け入れて修正することはできる。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	△	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	△	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	△	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-4 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。	△			
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-5 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。	△			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	△	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	○	1年の漢字は読み書きができており、進んで文章の中で使うことができる。助詞の使い方はほぼできるが、「を」に関してはあいまいなときが多い。句読点は打ち方は正しくできるが、「」は使う学習をまだしていない(視写の中では行っている)。書くときの姿勢は良い時と悪い時の差が多い。鉛筆も持ち方は学校、家庭でも注意されることが多い。手本を見て視写をするときは手本を見て点画の長短、接し方等を意識して書くことはできている。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	×	BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)		BeE12-3 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	×	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	×	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。	×	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	×	BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	×	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-9 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。	△			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-10 文字の大きさや配列に注意して書いている。	△			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-11 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。	△			
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	△	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○	話し言葉としては敬体を意識することはできるが、読み物の中では特に意識して読んでいる様子は見られない。
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)		CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	×	CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。		CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	×	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	△	

D小学校：対象児童⑤（小3男児・アスペルガー症候群・標準） ステップ4

（ D小 ）学校 対象児童生徒の国語科における達成度評価

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準		達成度	下学年(1年・2年)の評価規準		達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。		×	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おう		△	国語に関する関心・意欲・態度は全般に低い。経験したことを話したり、話の中心に気を付けて聞くことはできるが、相手や目的に応じて対応することが特に難しい。
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている		×	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。		△	
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaE34-1 幅広いいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている		×	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている		△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。		×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。		○	伝えたいことを話すことはできるが、相手や目的に応じてわかるように話すことが難しい。大事なことを気を付けて聞くことはできるが、話を聞いて自分の考えをまとめることは難しい。
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている		×	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。		△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている		△	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている		×	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。		○	書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書くことができる。書こうとする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書いたり、間違いなどを正したりすることは難しい。
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている		○	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている		×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている		△	
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書こうとする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書いている		×	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。		×	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している		×	
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる		×	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる		×	指示されたものは読むが、自分から本は読まない。文章の内容は想像しながら読みとれる。大事なところをまとめたり、細部に注意して読むことは難しい。声に出して読めるが様子がわかるようには読めない。
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる		△	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる		△	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている		○	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。		×	
C読むこと	d読む能力	CdE34-5 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。		×				
C読むこと	d読む能力	CdE34-6 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。		×				

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	×	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	×	主語や述語、修飾語など文の構成に気をつけて話をきける。 相手や状況に応じて適切な音量や速さ、丁寧な言葉遣いなどが難しい。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	○	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	×	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	○	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-4 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。	△			
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-5 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。	×			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	△	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	×	ひらがな、カタカナを文章の中で書き誤ることがある。 学年相応の漢字の知識はあるが正しく書けない。 長音、拗音、促音、撥音の表記、送りがな、句読点にも誤りが多い。 指示語や接続語、敬体と常体には注意して書いている。 文字の形、大きさ、配列などへの意識も薄い。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	○	BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)		BeE12-3 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書いている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	×	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	×	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。	×	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	○	BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	○	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-9 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。	×			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-10 文字の大きさや配列に注意して書いている。	×			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-11 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。				
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	×	ひらがな、カタカナ、学年相応の漢字は読める。 主語・述語の関係、指示語・接続語の役割なども概ね理解して読んでいる。
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)		CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	○	CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。	×	CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	△	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	○	

D小学校：対象児童⑥（小4男児・アスペルガー症候群・標準） ステップ4

（ D ）学校 対象児童生徒の国語科における達成度評価

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準		達成度	下学年(1年・2年)の評価規準		達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話		△	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりすると		○	1年、2年レベルの国語への関心・意欲・態度の基準には達している。 学年相応に相手や目的に応じて段落相互の関係を工夫したり、幅広くいろいろな読み物に興味を持ったりすることが難しい。
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている		×	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。		○	
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaE34-1 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている		×	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている		○	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。		○	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。		○	話す・聞く能力は学年相応の基準に達している。
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている		○	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。		○	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている		○	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている		○	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。		○	書く必要のある事柄を収集したり選択したりして、相手や目的に応じて書くことはできる。 自分の考えが明確になるように書いたり、文章の良いところを見つけたり、間違いを正したりすることが難しい。
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている		○	BcE12-2 書くこととする題材に必要な事柄を集めている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えながら書いている		×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書くこととする事の中心を明確にししながら、段落と段落との続き方に注意して書いている		△	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている		○	
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。		×	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している		△	
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる		×	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる		○	場面の変化や情景を想像しながら読んだり、自分と他者の感じ方や考え方の違いに気づいたりしながら読むことはできる。 気に入ったものは読むが、いろいろな分野のものは読まない。 大事な部分をまとめたり、必要となる細部に注意して読むことが難しい。 内容の中心や場面の様子がよくわかるように声に出して読むことが難しい。
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる		△	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる		○	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている		○	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。		○	
C読むこと	d読む能力	CdE34-5 自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。		×				
C読むこと	d読む能力	CdE34-6 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。		×				

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	△	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	○	話すこと・聞くことに関する知識や理解はあるが、状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと、文の構成に気をつけて聞くこと等がやや難しい。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	△	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	△	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-4 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。	○			
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-5 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。	○			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に担当されている漢字	×	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	×	書くことを全般に苦手としている。漢字の構成に関する知識は少しはあるが、書くことは1年、2年のレベルのものも難しい。 長音、拗音、促音、撥音の表記、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使えない。「そして」「だから」等の接続詞は使うが、送りがな、句読点がよく抜けてしまう。 文章の敬体、常体、文字の大きさや配列に関する意識も薄い。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	△	BeE12-2 第1学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)	△	BeE12-3 第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	×	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	×	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。	×	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	○	BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	×	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-9 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。	×			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-10 文字の大きさや配列に注意して書いている。	×			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-11 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。	△			
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに担当されている漢字を読んでいる。	×	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○	ひらがな、カタカナ、1年、2年の漢字は読めるが、学年相応の漢字が読めない。文中の主語、述語は理解しているが、指示語・接続語の理解はあいまい。国語辞典や漢字辞典は使えない。
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)	×	CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	×	CeE12-3 当該学年までに担当されている漢字を読んでいる。	△	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。	×	CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	△	CeE12-5 言葉遣いに気をつけて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	○	

E小学校：対象児童⑦（小2男児・PDD・標準） ステップ4

（ E小学校 ）学校 対象児童生徒の国語科における達成度評価

領域		下学年(1年・2年)の評価規準	達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おう	△	相手に応じて経験を話すことはできるが、事柄の順序を考えて話すことは苦手である。大事なことを聞き落とすことがある。文章は書けるが、目的に応じて事柄を集めたり、文の組み立てを考えて書くことは難しい。書いた文章を読み直すことは難しい。読み物の内容をとらえたり、想像を膨らませたり、声に出して楽しんで読むことができる。
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。	△	
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている	○	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	○	知らせたいことを相手にわかるように話せるが、事柄の順序を考えることが難しい。大事なことを聞き落としてしまう。身近な事柄を話し合うことができるが、話題に沿って話し合うことがやや難しい。
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	×	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。	△	
B書くこと	c書く能力	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	△	相手や目的を考えて、事柄の順序、語や文の続き方に注意して書くことは部分的にできる。題材に関する事柄を集めるたり、文の組み立てを考えたり、間違いがないか読み返したりすることは難しい。
B書くこと	c書く能力	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	×	
B書くこと	c書く能力	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×	
B書くこと	c書く能力	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	△	
B書くこと	c書く能力	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	×	
C読むこと	d読む能力	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる	○	自分から読み物を読んだり、音読することができる。時間や事柄の順序に着目して読んだり、叙述に即して想像を広げながら読むことは部分的にできる。
C読むこと	d読む能力	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる	△	
C読むこと	d読む能力	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる	△	
C読むこと	d読む能力	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	△	

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	○	姿勢や口形に注意してはっきり話することができる。丁寧なことばと普通のことばの違いに気をつけて話すことは部分的にできる。主語と述語の関係に注意して話したり聞いたりできるかについては不明である。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	△	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	?	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	○	当該学年の漢字が書け、文の中で使うことができる。文の中で、特殊音節や助詞の表記ができる。文字を丁寧に書くことができる。句読点、「」等を文で使うことは、やや難しい。主語と述語の関係に注意して文を書くことについては不明である。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-2 第1学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-3 第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている。	?	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○	平仮名、片仮名、及び当該学年の漢字を読むことができる。文中の主述の関係の理解、言葉遣いに注意して読むこと、敬体等文体を意識して読むことについては不明である。
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE12-3 当該学年までに担当されている漢字を読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	?	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	?	

F 中学校：対象生徒⑧（中3男子・PDD・軽度） ステップ4

（ F中 ）学校 対象児童生徒の国語科における達成度評価

領域		当該学年(中2・3年)の評価規準		達成度	下学年(中1年)の評価規準		達成度	下学年(1年・2年)の評価規準		達成度	児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaS23 広い範囲から話題を求め、表現を工夫して話そうとしたり相手の立場や考えを尊重して的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を豊かにし言語生活を向上させようとしている		×	AaS01-1 身近な生活における話題について関心をもち、自分の考えを進んで話そうとしたり相手の話を的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を大切にしようとしている		×	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。		○	
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaS23-1 広い範囲から必要な材料を集め、立場や伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように表現を工夫するとともに、書くことにより自らの生活を振り返って生活を豊かにしようとしている。		×	BaS01-1 身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとして、進んで書き表そうとしたりしている。		×	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。		△	
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaS23-1 学校図書館等を積極的に活用するなど、様々な文章から目的や意図に応じて情報を集めようとするとともに、読書を生活に役立てて自己を豊かにしようとしている		×	CaS01-1 学校図書館等を活用するなど、様々な種類の文章に応じた読み方をして内容を的確に理解しようとするとともに、進んで読書に親しみその見方や考え方を広げようとしている		×	CaE12-1 易しい読み物の内容の大体をとらえたり、自分なりに想像を膨らませたり、声に出したりしながら楽しんで読もうとしている		△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-1 広い範囲から話題をとらえて話している		×	AbS01-1 物事に対する自分の考えや気持ちを分かりやすく話している		×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。		△	簡単な内容であれば順序に沿って話すことができるが、相手に分かるように話すのは難しい。 話の大事な部分をもらさずに聞くことがある程度できる。 問われたことを話すが、話し合うことは難しい。
		AbS23-2 話し手のものの見方や考え方をとらえて、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりしている。		×	AbS01-2 話し手の意図を考えて話の内容を聞き取っている		×	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。		○	
		AbS23-3 話の中心の部分と付加的な部分との関係に注意して、話したり聞き取ったりしている。		×	AbS01-3 自分の考えや気持ちを伝えるのにふさわしい話題を選び出し、取り上げている		×	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。		×	
		AbS23-4 事実と意見との関係に注意し、論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりしている。		×	AbS01-4 全体と部分との関係、事実と意見との関係に注意して、話したり聞いたりしている。		×				
		AbS23-5 話の内容に応じ、適切な語句を選択して、話したり聞き取ったりしている		×	AbS01-5 話合いの話題や方向をとらえて、的確に話したり聞いたりしている。		×				
		AbS23-6 話の意図に応じ、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりしている。		×	AbS01-6 相手の考えと比較して、自分の考えをまとめている		×				
		AbS23-7 相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて、話したり聞き分けたりしている。		×							
		AbS23-8 互いの共通点や相違点などを聞き分け、自分の考えを広めたり深めたりしている		×							
B書くこと	c書く能力	BcS23-1 広い範囲から課題を見付けている。		×	BcS01-1 身近な生活や学習の中から課題を見付けている		×	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。		×	相手を考えながら書くのは難しい。 テーマにそって材料を集めることができる。 順序に沿って話すことはできるが、書くことはなぜか難しいようだ。 間違えないように書くことができる。
		BcS23-2 必要な材料を集め、それを基に自分のものの見方や考え方を深めている		×	BcS01-2 課題に関する材料を集め、それを基にして自分の考えをまとめている。		×	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている		○	
		BcS23-3 課題に対する自分の立場、伝えたい事実や事柄を明確にしている。		×	BcS01-3 伝えたい事実や事柄、課題、自分の考えや気持ちを明確にしている。		×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている		○	
		BcS23-4 文章の形態に応じて、書き出しや中心部分の展開など適切な構成を工夫している。		×	BcS01-4 自分の考えや気持ちを的確に表すために、広い範囲から適切な材料を選んでいく		×	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている		×	
		BcS23-5 自分の意見の基となる根拠を明らかにしている。		×	BcS01-5 書いた文章を読み返して、読みやすく分かりやすい文章にしている		×	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している		○	
		BcS23-6 文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。		×	BcS01-6 互いの文章を読み、題材のとらえ方や材料の集め方などについて相互に学び合って、自分の表現の参考になっている		×				
		BcS23-7 自分の書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章を書いている		×							
		BcS23-8 互いの文章を読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用仕方など様々な観点から相互に検討し、自分の表現に役立てている。		×							

C読むこと	d読む能力	CdS23-1 文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てている。	×	CdS01-1 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している	×	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる	○	読むことはできる。しかし、語の意味を取り違えたり、複数の意味のあるような語は混乱しているようだ。読みが同じ語も混乱しているようだ。書いてあることを読んでイメージを広げることが難しい。読んでわからないことが多いため、口頭でのやり取りで情報を得ることが多い。
		CdS23-2 文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容を理解している	×	CdS01-2 書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など文章の展開に即して内容をとらえている	×	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる	○	
		CdS23-3 文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、自分の表現に役立てている	×	CdS01-3 目的や必要に応じて要約している	×	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる	×	
		CdS23-4 文章の構成や展開、説明や描写などの表現の仕方や、文体など文章の特徴に注意して読んでいる	×	CdS01-4 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見とを読み分けている	×	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	△	
		CdS23-5 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもてるようになる。	×	CdS01-5 文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てている。	×			
		CdS23-6 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めている。	×	CdS01-6 文章の展開を確かめて、主題を考えたり要旨をとらえたりしている。	×			
		CdS23-7 集めた情報を自分の表現に役立てている。	×	CdS01-7 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げている	×			
				CdS01-8 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。	×			
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-1 音声の働きや仕組みに関心をもち、話したり聞いたりして理解を深めている	×	AeS01-1 話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意して話したり聞いたりしている。	×	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	○	相手や状況に応じて適切な音量や速さ、丁寧な言葉遣いをパターンで理解して行動している。状況に応じて友達にはくだけた言い方ができることがある。
		AeS23-2 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して話したり聞いたりしている。	×	AeS01-2 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話したり聞いたりするとともに、事象や行為などを表す多様な語句について理解している。	×	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	○	
		AeS23-3 抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	×	AeS01-3 話の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて話したり聞いたりしている	×	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	△	
		AeS23-4 相手や目的に応じて話の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどについて考えたりして話したり聞いたりしている。	×	AeS01-4 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同一ような働きをする語句などに注意して話したり聞いたりしている。	×			
		AeS23-5 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して話したり聞いたりしている。	×	AeS01-5 書き言葉とは違う話し言葉の特色や役割を理解し、適切に話したり聞いたりしている。	×			
		AeS23-6 共通語や方言の果たす役割などについて理解して話したり聞いたりするとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に話したり聞いたりしている。	×					
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-1 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して書き、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	×	BeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書き、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	×	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	○	漢字は、名詞にかかわる字の場合、画数が多くてもかけるが、抽象的な概念を示す字はかけても意味がわからないことが多い。身近な文字はかける。
		BeS23-2 相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどを考えたりして書いている。	×	BeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて書いている。	×	BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○	
		BeS23-3 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して書いている。	×	BeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同一ような働きをする語句などに注意して書いている。	×	BeE12-3 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第2学年)	△	
		BeS23-4 共通語と方言の果たす役割などについて理解して書くとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使っている。	×	BeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解し、適切に書いている。	×	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	△	
		BeS23-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち、第2学年では950字程度、第3学年ではその全てを書き、文や文章の中で使っている。	×	BeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	×	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	×	

○読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS23-1 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して読み、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	×	CeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読み、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている	×	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	△	複数の読み方がある文字が難しい。 主語・述語の関係、指示語・接続語の役割などを概ね理解して読んでいる。 身近な漢字は中学校で要求される文字も読んでいる
		CeS23-2 相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応などについて考えたりして読んでいる。	×	CeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。	×	CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○	
		CeS23-3 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して読んでいる。	×	CeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して読んでいる。	×	CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	
		CeS23-4 共通語と方言の果たす役割などについて理解して読むとともに、敬語についての理解を深め文章中の敬語の使い方を理解している。	×	CeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解して読んでいる[漢字]。	×	CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	△	
		CeS23-5 【漢字】第2学年では、第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読み、第3学年では第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。	×	CeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読んでいる。	×	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	○	

G中学校：対象生徒⑨（中2男子・アスペルガー症候群・標準） ステップ4

領域		中学校 第2学年及び第3学年(当該学		中学校 第1学年(下学年)		児童生徒の学習の状態
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaS23 広い範囲から話題を求め、表現を工夫して話そうとしたり相手の立場や考えを尊重して的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を豊かにし言語生活を向上させようとしている	×	AaS01-1 身近な生活における話題について関心をもち、自分の考えを進んで話そうとしたり相手の話を的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を大切にしようとしている	△	話すこと・聞くこと、書くことに関しては、当該学年の評価規準には達していない。下学年の評価規準に関しては部分的には達成していると思われるが、教師の支援が必要ことが多い。 読むことに関しては、十分ではないが、興味・関心のある事柄であれば、意欲的に読もうとしている。
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaS23-1 広い範囲から必要な材料を集め、立場や伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように表現を工夫するとともに、書くことにより自らの生活を振り返って生活を豊かにしようとしている。	×	BaS01-1 身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとして、進んで書き表そうとしたりしている。	△	
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaS23-1 学校図書館等を積極的に活用するなど、様々な文章から目的や意図に応じて情報を集めようとするとともに、読書を生活に役立て自己を豊かにしようとしている	△	CaS01-1 学校図書館等を活用するなど、様々な種類の文章に応じた読み方をして内容を的確に理解しようとするとともに、進んで読書に親しみものの見方や考え方を広げようとしている	△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-1 広い範囲から話題をとらえて話している	?	AbS01-1 物事に対する自分の考えや気持ちを分かりやすく話している	△	話す・聞く能力に関しては、話の中心の部分と付加的な部分との関係に注意して、話したり聞き取ったりすることに関しては当該学年の評価規準に達していると思われる。それ以外は、当該学年、下学年の評価規準には十分には達してはならず、部分的に該当するに内容がほとんどである。
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-2 話し手のものの見方や考え方をとらえて、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりしている。	△	AbS01-2 話し手の意図を考えて話の内容を聞き取っている	△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-3 話の中心の部分と付加的な部分との関係に注意して、話したり聞き取ったりしている。	○	AbS01-3 自分の考えや気持ちを伝えるのにふさわしい話題を選び出し、取り上げている	△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-4 事実と意見との関係に注意し、論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりしている。	△	AbS01-4 全体と部分との関係、事実と意見との関係に注意して、話したり聞いたりしている。	△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-5 話の内容に応じ、適切な語句を選択して、話したり聞き取ったりしている	△	AbS01-5 話合いの話題や方向をとらえて、的確に話したり聞いたりしている。	△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-6 話の意図に応じ、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりしている。	△	AbS01-6 相手の考えと比較して、自分の考えをまとめている	△	
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-7 相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて、話したり聞き分けたりしている。	△			
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-8 互いの共通点や相違点などを聞き分け、自分の考えを広めたり深めたりしている	△			
B書くこと	c書く能力	BcS23-1 広い範囲から課題を見付けている。	×	BcS01-1 身近な生活や学習の中から課題を見付けている	×	書く能力に関しては、課題が示されていれば取り組むことは可能だが、自分で課題を見つけることに関しては苦手としている。相手にわかりやすく伝えようという意思をもって工夫をして表現することは難しい。当該学年、下学年の評価規準には部分的に達していると思われる。
B書くこと	c書く能力	BcS23-2 必要な材料を集め、それを基に自分のものの見方や考え方を深めている	△	BcS01-2 課題に関する材料を集め、それを基にして自分の考えをまとめている。	△	
B書くこと	c書く能力	BcS23-3 課題に対する自分の立場、伝えたい事実や事柄を明確にしている。	△	BcS01-3 伝えたい事実や事柄、課題、自分の考えや気持ちを明確にしている。	×	
B書くこと	c書く能力	BcS23-4 文章の形態に応じて、書き出しや中心部分の展開など適切な構成を工夫している。	△	BcS01-4 自分の考えや気持ちを的確に表すために、広い範囲から適切な材料を選んで	△	
B書くこと	c書く能力	BcS23-5 自分の意見の基となる根拠を明らかにしている。	△	BcS01-5 書いた文章を読み返して、読みやすく分かりやすい文章にしている	△	
B書くこと	c書く能力	BcS23-6 文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。	△	BcS01-6 互いの文章を読み、題材のとらえ方や材料の集め方などについて相互に学び合って、自分の表現の参考にしている	△	
B書くこと	c書く能力	BcS23-7 自分の書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章を書いている	×			
B書くこと	c書く能力	BcS23-8 互いの文章を読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方など様々な観点から相互に検討し、自分の表現に役立てている。	×			

C読むこと	d読む能力	CdS23-1 文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てている。	△	CdS01-1 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している	△	当該学年に関しては、語句の効果的な使い方について理解することや、文章の論理の展開の仕方の的確に捉えることが不十分である。目的をもって様々な文章を読むことは十分ではないが、必要な情報を収集することは達成している。下学年に関しては、部分的に達している内容がほとんどである。
C読むこと	d読む能力	CdS23-2 文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容を理解している	△	CdS01-2 書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など文章の展開に即して内容をとらえている	△	
C読むこと	d読む能力	CdS23-3 文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、自分の表現に役立てている	△	CdS01-3 目的や必要に応じて要約している	△	
C読むこと	d読む能力	CdS23-4 文章の構成や展開、説明や描写などの表現の仕方や、文体など文章の特徴に注意して読んでいる	△	CdS01-4 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見とを読み分けている	△	
C読むこと	d読む能力	CdS23-5 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもてるようになる。	△	CdS01-5 文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てている。	△	
C読むこと	d読む能力	CdS23-6 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めている。	△	CdS01-6 文章の展開を確かめて、主題を考えたり要旨をとらえたりしている。	△	
C読むこと	d読む能力	CdS23-7 集めた情報を自分の表現に役立てている。	△	CdS01-7 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げている	△	
				CdS01-8 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。	△	

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-1 音声の働きや仕組みに関心をもち、話したり聞いたりして理解を深めている	×	AeS01-1 話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意して話したり聞いたりしている。	△	当該学年に関しては、未実施の部分がほとんどである。相手や目的に応じて話の形態や展開に違いがあることに気付くことはできているが、文の成分の順序、組み立て等について考えることは不十分である。下学年に関してはほとんどが部分的な達成だが、書き言葉とは違う話し言葉の特色や役割を理解し、適切に話したり聞いたりすることにに関しては達成している。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-2 慣用語、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して話したり聞いたりしている。	?	AeS01-2 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話したり聞いたりするとともに、事象や行為などを表す多様な語句について理解している。	△	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-3 抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	?	AeS01-3 話の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて話したり聞いたりしている	△	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-4 相手や目的に応じて話の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどについて考えたりして話したり聞いたりしている。	△	AeS01-4 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同一ような働きをする語句などに注意して話したり聞いたりしている。	△	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-5 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して話したり聞いたりしている。	?	AeS01-5 書き言葉とは違う話し言葉の特色や役割を理解し、適切に話したり聞いたりしている。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-6 共通語や方言の果たす役割などについて理解して話したり聞いたりするとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に話したり聞いたりしている。	?			

B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-1 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して書き、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	?	BeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書き、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	△	当該学年に関しては、字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮して書くことは達成しているが、それ以外は未実施な部分が多い。相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付くことはできているが、文の成分の順序や照応、組立てなどを考えたりして書くことに関しては不十分である。下学年に関しても、部分的に達成している内容が多い。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-2 相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどを考えたりして書いている。	△	BeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-3 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して書いている。	?	BeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-4 共通語と方言の果たす役割などについて理解して書くとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使っている。	?	BeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解し、適切に書いている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち、第2学年では950字程度、第3学年ではその全てを書き、文や文章の中で使っている。	△	BeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-6 【書写】字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮して書いている。	○	BeS01-6 【書写】字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書いている。	?	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-7 【書写】目的や必要に応じて調和よく書き、漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解して書くとともに、読みやすく速く書いている。	△	BeS01-7 【書写】漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。	?	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS23-1 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して読み、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	?	CeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読み、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている	△	敬語についての理解を深め文章中の敬語の使い方を理解して、相手や場所に応じて使うことも可能である。読むことについての言語についての知識・理解・技能に関しては、評価規準としては、未実施や部分的に達成しているものが多いが、生活経験や日常生活からの情報収集等からカバーして活用している部分があると思われる。
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS23-2 相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応などについて考えたりして読んでいる。	△	CeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。	△	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS23-3 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して読んでいる。	?	CeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して読んでいる。	△	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS23-4 共通語と方言の果たす役割などについて理解して読むとともに、敬語についての理解を深め文章中の敬語の使い方を理解している。	△	CeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解して読んでいる【漢字】。	△	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS23-5 【漢字】第2学年では、第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読み、第3学年では第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。	×	CeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読んでいる。	△	

H中学校：対象生徒⑩（中1女子・自閉症・標準） ステップ4

(H 中)学校 対象児童生徒の国語科における達成度評価					
領域		当該学年(中学1年)の評価規準 達成度		下学年(小学5年・6年)の評価規準 達成度	
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaS01-1 身近な生活における話題について関心をもち、自分の考えを進んで話そうとしたり相手の話を的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を大切にしようとする。	△	AaE56-1 話の組立てを工夫して話そうとしたり、話し手の意図を考えながら聞き取ろうとするとともに計画的に話し合おうとしている。	×
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaS01-1 身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとして、進んで書き表そうとしていたりしている。	×	BaE56-1 目的や意図に応じて、書く必要のある事柄を整理したり、文章全体の組立てを工夫したりして、効果的に書こうとしている。	△
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaS01-1 学校図書館等を活用するなど、様々な種類の文章に応じた読み方をして内容を的確に理解しようとするとともに、進んで読書に親しみものの見方や考え方を広げようとしている。	○	CaE56-1 目的に応じた読書を通して、考えを広げたり深めたり、優れた叙述を味わったりするとともに、効果的な読み方を工夫しようとしている。	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS01-1 物事に対する自分の考えや気持ちを分かりやすく話している。	○	AbE56-1 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話している。	△
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS01-2 話し手の意図を考えて話の内容を聞き取っている。	△	AbE56-2 話し手の意図を考えながら話の内容を聞いている。	△
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS01-3 自分の考えや気持ちを伝えるのにふさわしい話題を選び出し、取り上げている。	△	AbE56-3 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS01-4 全体と部分との関係、事実と意見との関係に注意して、話したり聞いたりしている。	×		
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS01-5 話合いの話題や方向をとらえて、的確に話したり聞いたりしている。	×		
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS01-6 相手の考えと比較して、自分の考えをまとめている。	×		
児童生徒の学習の状態 ・習得度にばらつきが目立っているが、「読む」ことには関心を持っている。 ・内容によって聞いて理解することもできるが、理解していることを活用する際に、本人ありのこだわり(融通がきかない)面が見られる。 ・俳句の5・7・5などような形式が明確な内容については、意欲的に取り組む姿勢も見られ。 ・書くこと、話すことへの関心を高める手だてとして、考えや思いを引き出しやすいように枠や目標などを提示しながら引き出すことが必要である。 ・聞かれたことには応えるが、積極的には話さない。 ・他者の話を聞いて比較することは困難。 ・聞くことへの注意の持続が難しい。 ・目的がはっきりしていれば聞くことは可能。 ・目的を明確にすることで注意して聞く態度ができるのではないかな？ ・いつ、誰と、何をしたのパターンで体験したことについては話すことができるが、感想は苦手。 (今後の手だて) ・目的を明確にして話すように促す。 ・聞いたことについて話す練習も必要。 ・指示を聞いて理解できるようにする。					

B書くこと	c書く能力	BcS01-1 身近な生活や学習の中から課題を見付けている	△	BcE56-1 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書いている	△	・書字や広い範囲から情報を取り込むことは比較的可能だが、文章表現で自分の考えや気持ちを組み立てることが苦手である。 ・文字表記については特に問題ない。 (今後の手だて) ・目的を明確にすることで書いて表現することを促す。 ・結果がはっきりする課題を解決することで意欲、自信を持てるようにすることで、積極的な取組が促せる。
B書くこと	c書く能力	BcS01-2 課題に関する材料を集め、それを基にして自分の考えをまとめている。	△	BcE56-2 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理している	△	
B書くこと	c書く能力	BcS01-3 伝えたい事実や事柄、課題、自分の考えや気持ちを明確にしている。	○	BcE56-3 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えている	×	
B書くこと	c書く能力	BcS01-4 自分の考えや気持ちを的確に表すために、広い範囲から適切な材料を選んでいる	×	BcE56-4 事象と感想、意見などを区別して書いている・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりしている	△	
B書くこと	c書く能力	BcS01-5 書いた文章を読み返して、読みやすく分かりやすい文章にしている	△	BcE56-5 表現の効果などについて確かめたり工夫したりしている	×	
B書くこと	c書く能力	BcS01-6 互いの文章を読み、題材のとらえ方や材料の集め方などについて相互に学び合って、自分の表現の参考になっている	×			
C読むこと	d読む能力	CdS01-1 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している	△	CdE56-1 自分の考えを広げたり深めたりするために、主体的な立場で図書資料を選んで読んでいる。	△	・文章中の語句などは文脈を捉えながら読み分けることは年齢相応にある程度可能だが、書き手の考えや説明などを文章の展開に即して内容を読み取ることが苦手である。 ・文章中の主題や要旨を捉えることが苦手な、文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方に広げていくことは苦手である。
C読むこと	d読む能力	CdS01-2 書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など文章の展開に即して内容をとらえている	×	CaE56-2 目的や意図に応じて、文章の内容を短く要約したり伸ばしたりして、要旨をとらえて読んでいる。	×	
C読むこと	d読む能力	CdS01-3 目的や必要に応じて要約している	△	CaE56-3 叙述に基づいて、登場人物の心情や性格、考え方などを多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読んでいる	×	
		CdS01-4 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見とを読み分けている	×			
		CdS01-5 文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てている。	×			
C読むこと	d読む能力	CdS01-6 文章の展開を確かめて、主題を考えたり要旨をとらえたりしている。	×			
C読むこと	d読む能力	CdS01-7 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げている	×	CaE56-4 事象と感想・意見の関係を押さえ、それらについての自分の考えを明らかにしている	×	
C読むこと	d読む能力	CdS01-8 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。	×	CaE56-5 自分に必要な情報を得るために学校図書館を利用するなどして、効果的な読み方をしている。	△	

A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS01-1 話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意して話したり聞いたりしている。	○	AeE56-1 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。	△	話すこと、聞くことに関する言語についての知識・理解・技能は年齢相応の力をもっているが、話すことについては多少の不得手さがみられる。
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS01-2 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話したり聞いたりするとともに、事象や行為などを表す多様な語句について理解している。	△	AeE56-2 文や文章のいろいろな構成があることについて理解し、活用している。	×	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS01-3 話の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて話したり聞いたりしている。	△	AeE56-3 日常よく使われる敬語の使い方に慣れている。	○	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS01-4 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して話したり聞いたりしている。	△	AeE56-4 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話している。	△	
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS01-5 書き言葉とは違う話し言葉の特色や役割を理解し、適切に話したり聞いたりしている。	○			
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書き、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	×	BeE56-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	×	いろいろな語彙に関心は示しているものの、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書くことや事象や行為などを表す多様な語句について理解が十分に習得されていない。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて書いている。	△	BeE56-2 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して書いている。	△	BeE56-3 表現するために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けている。	○	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解し、適切に書いている。	△	BeE56-4 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、活用している。	×	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	△	BeE56-5 日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。	△	
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-6 【書写】字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書いている。	○	BeE56-6 文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書いている。	○	音読の際に、文章中の段落内の確間の接続関係などを考えて読んでいるが、文章中の段落の役割を考えて読むことが十分に習得されていない。
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-7 【書写】漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。	○	BeE56-7 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書いている。	○	
				BeE56-8 毛筆を使用して、字配りよく書いている。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読み、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	△	CeE56-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。	×	CeE56-2 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	×	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して読んでいる。	△	CeE56-3 語句に関する類別や構成、変化などについて理解し、語句の由来などに関心をもっている。	×	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解して読んでいる【漢字】。	△	CeE56-4 理解したりするための語句について、辞書を利用して調べている。	○	
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読んでいる。	△	CeE56-5 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。	×	
				CeE56-6 易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しんでいる。	×	
				CeE56-7 文章にはいろいろな構成があることについて理解している。	×	

3 研究対象児童生徒の国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)活用の分析

本年度は、国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)を作成し、算数科・数学科については作成の途中である。

したがって本稿では、研究協力校8校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する対象児童生徒10人の、国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)から読み取れる実態についてまとめていく(表2参照)。

表2 研究対象児童生徒の概要

学校名	番号	学年	診断名等	知的発達程度
A小学校	①	小3男児	PDD	境界線
B小学校	②	小3男児	高機能自閉症	標準
C小学校	③	小1男児	PDD	境界線
C小学校	④	小4男児	アスペルガー症候群	標準
D小学校	⑤	小3男児	アスペルガー症候群	標準
D小学校	⑥	小4男児	アスペルガー症候群	標準
E小学校	⑦	小2男児	PDD	標準
F中学校	⑧	中3男子	PDD	軽度
G中学校	⑨	中2男子	アスペルガー症候群	標準
H中学校	⑩	中1女子	自閉症	標準

まず対象児童生徒は、小学校1年男児が1名、2年男児が1名、3年男児が3名、4年男児が1名である。

また中学校では、中1女子生徒が1名、2年男子生徒が2名、3年男子生徒が1名で、結果的に、小学校5・6年生を除いた1年生から中学3年生の

10名となっている。さらに、知的発達の遅れがない高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群のある児童生徒は7名で、知的障害の程度が境界線あるいは軽度の児童生徒は3名である。

そこで、最初に知的発達に遅れがない児童生徒7名について検討する。7名の児童生徒は、知的発達の程度からすると、1年間の国語科学習により、本来ならば評価規準は概ね達成されているはずである。前ページの各表は、協力校の対象児童生徒の当該学年及び下学年の学習の習得状況をステップ4としてまとめているのだが、全ての児童生徒で当該学年及び下学年の評価項目がともに○(できている)となった項目のみ、以下に抽出してみる。尚、③と⑦の児童は、小学校1年、2年ということで、下学年の項目はないため該当項目なしに分類している。

- ・A小学校 ① 小3男児(境界線知能) 該当する項目なし
- ・C小学校 ③ 小1男児(境界線知能) 該当する項目なし
- ・D小学校 ④ 小4男児(標準) 該当する項目なし
- ・E小学校 ⑦ 小2男児(標準) 該当する項目なし
- ・F中学校 ⑧ 中3男子(軽度) 該当する項目なし
- ・G中学校 ⑨ 中2男子(標準) 該当する項目なし

また、該当している項目があった②、⑤、⑥、⑩の児童生徒の結果を示す。

B小学校 ② 小2男児(標準)

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準 達成度		下学年(1年・2年)の評価規準 達成度	
B書くこと	c書く能力	BeE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている	○	BeE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	○
C読むこと	d読む能力	CdE34-2 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる	○	CdE12-2 時間や事柄などの順序に着目し、内容の大体を読んでいる	○
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-2 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。	○	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	○	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	○	BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-3 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年)	○	BeE12-3 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第2学年)	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-5 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	○	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-7 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。	○	BeE12-7 姿勢や用具の持ち方正しくして丁寧に書いている。	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	○	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	○
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-1 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○	CeE12-1 はっきりした発音で読んでいる。	○
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-2 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年)	○	CeE12-2 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。	○
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	○	CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-4 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。	○	CeE12-4 文の中における主語と述語との関係を理解している。	○
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-5 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。	○	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	○

D小学校 ⑤ 小3男児(標準)

領域		当該学年(3年・4年)の評価規準 達成度		下学年(1年・2年)の評価規準 達成度	
B書くこと	e書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている	○	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	○
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-3 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。	○	AeE12-3 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-2 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。	○	BeE12-2 第1学年に配当されている漢字を漸次書いている。(第1学年)	○
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE34-3 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。	○	CeE12-3 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。	○

D小学校 ⑥ 小4男児(標準)

A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	○	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	○
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている	○	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	○
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-3 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている	○	AbE12-3 身近な事柄について、話題に沿って、話し合っている。	○
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている	○	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	○
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている	○	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	○
C読むこと	d読む能力	CdE34-3 場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる	○	CdE12-3 場面や事柄のまとまりなどについて、叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる	○
C読むこと	d読む能力	CdE34-4 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている	○	CdE12-4 声に出して読んで、語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて感じたり考えたりしている。	○

H中学校 ⑩ 女子生徒(標準)

B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-6 【書写】字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書いている。	○	BeE56-6 文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書いている。	○
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-7 【書写】漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。	○	BeE56-7 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書いている。	○

4名の児童生徒は、知的発達の程度が標準であったが、当該学年及び下学年ともに○のついた項目では、4名中3名の児童生徒が「言語についての知識・理解・技能」に○が多いものの、概観すると共通性はほぼないと言ってよいと思われる。②の児童は「書くこと」「読むこと」の領域における「言語についての知識・理解・技能」がほぼ習得されていると推測できる。

⑥の児童は、他の児童生徒とは異なり、「言語についての知識・理解・技能」の習得状況は十分ではないが、各領域の能力については概ね習得されている実態が読み取れる。

次に、知的発達に遅れがない児童生徒であるが、当該学年及び下学年の評価項目がともに×（できていない）となった項目を抽出してみる（⑦児のみ当該学年）。

B小学校 ②小3男児(高機能自閉症・標準)					
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-2 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている	×	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	×

C小学校 ④小3男児(アスペルガー症候群・標準)					
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	×
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている	×	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	×
B書くこと	c書く能力	BcE34-2 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている	×	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	×
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている	×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書こうとする事の中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書いている	×	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-6 文章全体における段落の役割を理解している。	×	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	×

D小学校 ⑤小3男児(アスペルガー症候群・標準)					
B書くこと	c書く能力	BcE34-5 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。	×	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	×
C読むこと	d読む能力	CdE34-1 いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる	×	CdE12-1 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる	×
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE34-1 その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。	×	AeE12-1 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話している。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	×	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	×

D小学校 ⑥小4男児(アスペルガー症候群・標準)

B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	×	BeE12-1 平仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-4 送り仮名に注意して書いている。・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。	×	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE34-8 文章の敬体と常体に注意して書いている。	×	BeE12-8 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。	×

E小学校 ⑦小2男児(PDD・標準)

A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-2 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞いている。	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	×

G中学校 ⑨中2男子(アスペルガー症候群・標準)

B書くこと	c書く能力	BcS01-1 身近な生活や学習の中から課題を見付けている。	×
-------	-------	-----------------------------------	---

H中学校 ⑩中1女子(自閉症・標準)

C読むこと	d読む能力	CdS01-2 書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など文章の展開に即して内容をとらえている	×	CaE56-2 目的や意図に応じて、文章の内容を短く要約したり伸ばしたりして、要旨をとらえて読んでいる。	×
C読むこと	d読む能力	CdS01-7 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げている	×	CaE56-4 事象と感想・意見の関係を押さえ、それらについての自分の考えを明らかにしている	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書き、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	×	BeE56-1 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。	×
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。	×	CeE56-2 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	×

7名の児童生徒の抽出項目をみていくと、当該学年及び下学年の両方で習得されていない項目の共通点は見いだせない。例えば、同じ小3の②と④と⑤の児童の項目は、概ね「話す・聞く能力」と「書く能力」の項目で習得に至っていないと思われるが、3人のつまずいている内容は個々によって異なっている。また、⑥の児童は、各領域の「関心・意欲・態度」や

「能力」の項目内容は習得されているようだが、書くことに関する「知識・理解・技能」が習得されていない項目が目立っている。

今の研究では、協力校の自閉症のある児童生徒を通して、自閉症の特徴から国語科の学習内容に共通したつまずきの傾向をみることは難しい。しかし、知的発達の遅れがない児童生徒であるからこそ、特に小学校1・2年生の段階のつまずきは、自閉症・情緒障害特別支援学級での指導を重点化する必要があると思われる。

次に、知的発達の遅れがある①、③、⑧の児童生徒について、同様に当該学年及び下学年の評価で達成できていない項目を抜き出してみる（③児は当該のみ）。

A小学校 ①小3男児(PDD・境界線)					
領域		当該学年(3年・4年)の評価規準		下学年(1年・2年)の評価規準	
A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaE34 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。	×	AaE12-1 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事な事を落とさないように聞いたりするとともに、話題からそれないように話し合おうとしている。	×
	a国語への関心・意欲・態度	BaE34-1 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている	×	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE34-1 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。	×	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	×
B書くこと	c書く能力	BcE34-1 相手や目的に応じて、適切に書いている	×	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	×
B書くこと	c書く能力	BcE34-3 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている	×	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×
B書くこと	c書く能力	BcE34-4 書こうとする事を中心を明確にししながら、段落と段落との続き方に注意して書いている	×	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	×

C小学校 ③小1男児(PDD・境界線)

B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaE12-1 相手や目的を考えながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbE12-1 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話している。	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-1 相手や目的を考えながら、書いている。	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-2 書こうとする題材に必要な事柄を集めている	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-3 自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-4 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている	×
B書くこと	c書く能力	BcE12-5 文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している	×
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeE12-2 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-4 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-5 句読点の打ち方やかぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。	×
B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeE12-6 文の中における主語と述語との関係に注意して書いている	×
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeE12-5 言葉遣いに気を付けて読むとともに、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	×

F中学校 ⑧中3男子(PDD・軽度)

A話すこと・聞くこと	a国語への関心・意欲・態度	AaS23 広い範囲から話題を求め、表現を工夫して話そうとしたり相手の立場や考えを尊重して的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を豊かにし言語生活を向上させようとしている	×	AaS01-1 身近な生活における話題について関心をもち、自分の考えを進んで話そうとしたり相手の話を的確に聞き取ろうとしたりするとともに、話し言葉を大切にしようとしている	×
B書くこと	a国語への関心・意欲・態度	BaS23-1 広い範囲から必要な材料を集め、立場や伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように表現を工夫するとともに、書くことにより自らの生活を振り返って生活を豊かにしようとしている。	×	BaS01-1 身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしていたり、進んで書き表そうとしたりしている。	×
C読むこと	a国語への関心・意欲・態度	CaS23-1 学校図書館等を積極的に活用するなど、様々な文章から目的や意図に応じて情報を集めようとするとともに、読書を生活に役立て自己を豊かにしようとしている	×	CaS01-1 学校図書館等を活用するなど、様々な種類の文章に応じた読み方をして内容的に理解しようとするとともに、進んで読書に親しみものの見方や考え方を広げようとしている	×
A話すこと・聞くこと	b話す・聞く能力	AbS23-1 広い範囲から話題をとらえて話している	×	AbS01-1 物事に対する自分の考えや気持ちを分かりやすく話している	×
		AbS23-2 話し手のものの見方や考え方をとらえて、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりしている。	×	AbS01-2 話し手の意図を考えて話の内容を聞き取っている	×
		AbS23-3 話の中心の部分と付加的な部分との関係に注意して、話したり聞き取ったりしている。	×	AbS01-3 自分の考えや気持ちを伝えるのにふさわしい話題を選び出し、取り上げている	×
		AbS23-4 事実と意見との関係に注意し、論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりしている。	×	AbS01-4 全体と部分との関係、事実と意見との関係に注意して、話したり聞いたりしている。	×
		AbS23-5 話の内容に応じ、適切な語句を選択して、話したり聞き取ったりしている	×	AbS01-5 話合いの話題や方向をとらえて、的確に話したり聞いたりしている。	×
		AbS23-6 話の意図に応じ、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりしている	×	AbS01-6 相手の考えと比較して、自分の考えをまとめている	×

B書くこと	c書く能力	BcS23-1 広い範囲から課題を見付けている。	×	BcS01-1 身近な生活や学習の中から課題を見付けている	×
		BcS23-2 必要な材料を集め、それを基に自分のものの見方や考え方を深めている	×	BcS01-2 課題に関する材料を集め、それを基にして自分の考えをまとめている。	×
		BcS23-3 課題に対する自分の立場、伝えたい事実や事柄を明確にしている。	×	BcS01-3 伝えたい事実や事柄、課題、自分の考えや気持ちを明確にしている。	×
		BcS23-4 文章の形態に応じて、書き出しや中心部分の展開など適切な構成を工夫している。	×	BcS01-4 自分の考えや気持ちを的確に表すために、広い範囲から適切な材料を選んでいる	×
		BcS23-5 自分の意見の基となる根拠を明らかにしている。	×	BcS01-5 書いた文章を読み返して、読みやすく分かりやすい文章にしている	×
		BcS23-6 文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。	×	BcS01-6 互いの文章を読み、題材のとらえ方や材料の集め方などについて相互に学び合って、自分の表現の参考にしてしている	×
C読むこと	d読む能力	CdS23-1 文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てている。	×	CdS01-1 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している	×
		CdS23-2 文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容を理解している	×	CdS01-2 書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など文章の展開に即して内容をとらえている	×
		CdS23-3 文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、自分の表現に役立てている	×	CdS01-3 目的や必要に応じて要約している	×
		CdS23-4 文章の構成や展開、説明や描写などの表現の仕方、文体など文章の特徴に注意して読んでいる	×	CdS01-4 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見とを読み分けている	×
		CdS23-5 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもてるようになる。	×	CdS01-5 文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てている。	×
		CdS23-6 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めている。	×	CdS01-6 文章の展開を確かめて、主題を考えたり要旨をとらえたりしている。	×
		CdS23-7 集めた情報を自分の表現に役立てている。	×	CdS01-7 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げている	×
A話すこと・聞くこと	e言語についての知識・理解・技能	AeS23-1 音声の働きや仕組みに関心をもち、話したり聞いたりして理解を深めている	×	AeS01-1 話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意して話したり聞いたりしている。	×
		AeS23-2 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して話したり聞いたりしている。	×	AeS01-2 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話したり聞いたりするとともに、事象や行為などを表す多様な語句について理解している。	×
		AeS23-3 抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	×	AeS01-3 話の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて話したり聞いたりしている	×
		AeS23-4 相手や目的に応じて話の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどについて考えたりして話したり聞いたりしている。	×	AeS01-4 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して話したり聞いたりしている。	×
		AeS23-5 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して話したり聞いたりしている。	×	AeS01-5 書き言葉とは違う話し言葉の特色や役割を理解し、適切に話したり聞いたりしている。	×

B書くこと	e言語についての知識・理解・技能	BeS23-1 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して書き、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	×	BeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書き、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	×
		BeS23-2 相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどを考えたりして書いている。	×	BeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて書いている。	×
		BeS23-3 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して書いている。	×	BeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して書いている。	×
		BeS23-4 共通語と方言の果たす役割などについて理解して書くとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使っている。	×	BeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解し、適切に書いている。	×
		BeS23-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち、第2学年では950字程度、第3学年ではその全てを書き、文や文章の中で使っている。	×	BeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	×
		BeS23-6 【書写】字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮して書いている。	×	BeS01-6 【書写】字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書いている。	×
		BeS23-7 【書写】目的や必要に応じて調和よく書き、漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解して書くとともに、読みやすく速く書いている。	×	BeS01-7 【書写】漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。	×
C読むこと	e言語についての知識・理解・技能	CeS23-1 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して読み、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	×	CeS01-1 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読み、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。	×
		CeS23-2 相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応などについて考えたりして読んでいる。	×	CeS01-2 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。	×
		CeS23-3 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意して読んでいる。	×	CeS01-3 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意して読んでいる。	×
		CeS23-4 共通語と方言の果たす役割などについて理解して読むとともに、敬語についての理解を深め文章中の敬語の使い方を理解している。	×	CeS01-4 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解して読んでいる【漢字】。	×
		CeS23-5 【漢字】第2学年では、第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読み、第3学年では第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。	×	CeS01-5 【漢字】小学校学年別漢字配当表に示された漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読んでいる。	×

①の児童は、小3男児で知的発達の種類も境界線レベルであり、「知識・理解・技能」の習得より「関心・意欲・態度」、あるいは「書く能力」の習得が難しい実態である。

③の児童は、小1男児で知的発達の種類は境界線レベルである。国語の評価規程は2学年ごとに作成されているため、当該学年の習得状況の結果のみであるが、「書くことに関する関心・意欲・態度」、「書く能力」、「書くことの知識・理解・技能」と、おおよそ書く領域に関して習得できていないことがみえてきた。

また、⑧の生徒は中3男子で、今回の研究の対象とした児童生徒10人中、唯一、軽度知的障害のある自閉症の生徒である。学年も中学校3年ということもあり、国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の評価では、当該学年並びに下学年(中学校1年生用)は全て習得されていない実態が明らかになっている。ちなみに、この生徒の担当教師は、対象生徒の実態を明確にするため、小学校の評価を全て実施したところ、結果的に小学校1・2年生の段階で習得できている項目が散見する実態であった。

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒を指導するにあたり、教育課程の編成を含め、指導内容や指導時間数は担当者に任されている。従って、国語科や算数科・数学科の教科指導においても、その指導内容や時数は担当者に一任され、現状では教科学習の積み重ねが十分でない場合もあると推測する。

そこで、本研究報告書には載せることができていないが、3月末の研究協力者会議において、研究協力校8校の自閉症・情緒障害特別支援学級の担当者に、以下のような資料(図1)を提出して頂き、対象の児童生徒の実態から、22年度に実施した国語科、算数科・数学科の指導内容を明記して貰う予定である。

何故なら、自閉症のある児童生徒の指導においては、知的障害の有無も含めて、その特徴が多様であるため、『自閉症は〇〇を指導すればよい』といった一般化できる指導内容を提案することが難しい。それこそ、対象児童生徒の様々な観点から実態把握を行い、その一部として学習の習得状態を把握するアセスメントも取り入れることで、教科指導の内容や指導時間数を含めた、教科指導の在り方を模索する必要があると思われるからである。今回、8校の担当者に国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)を活用することによって、対象の児童生徒の学習評価が可能であった。その評価を踏まえて、次年度の教育課程の編成を考えて貰う手配をしているが、特に対象児童生徒の実態から、国語科の学習において、どんな内容を重点化したり軽減化しようと計画したのか、その視点について意見を頂く予定である。

学校名（ 県 市立 小学校・中学校）

1. 本研究における対象児童生徒の実態

番号	性別	障害名等	知的発達の程度	適応状態の程度	児童生徒の特徴等

2. 対象児童生徒の平成 22 年度における国語科並びに算数科・数学科の年間指導内容

＊年間計画で計画した内容ではなく、実際に実施した国語並びに算数・数学の指導内容を、4 月から 3 月までのおおよそをお書き下さい。「主な指導内容」は、例えば「説明文の指導」「文学教材・物語文の指導」「新出漢字」等といった見出しと、使用した学習材は、「学年等」の覧に＜当該学年教科書内容＞か、＜下学年教科書内容＞を、「教材等」には＜市販教材＞、＜自作プリント教材＞、＜教科書にそっての指導＞等を記入して下さい。

また「指導内容を取り上げた主な理由」には、特に対象児童生徒の実態等から指導した理由や背景等をお書き下さい。

①国語科

指導内容を取り上げた主な理由

月	主な指導内容	学年等	教材等
4 月			
5 月			
6 月			
7 月			
9 月			
10 月			
11 月			

図 1 研究協力者会議提出資料（1 枚目）

12月			
1月			
2月			
3月			

②算数科・数学科

<u>指導内容を取り上げた主な理由</u>

月	主な指導内容	学年等	教材等
4月			
5月			
6月			
7月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

3. 国語科カリキュラムアセスメント(仮称の実施を通しての反映

- ①児童生徒の国語科における学習の評価結果から、あらためて理解できたこと、次年度の国語科指導の構想、感想等について自由に記入して下さい。

<u>国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の実態把握から理解できた児童生徒の現状</u>
--

②国語科の指導時間数及び指導内容の重点化、軽減化の視点で今年度の変容についてお書き下さい。

自閉症・情緒障害特別支援学級での国語の指導時間数等について

＊以下の内容について該当する部分を記入して下さい。

- ・指導時間数を多くした：週あたり（ ）時間から（ ）時間へ
- ・指導時間数を少なくした：週あたり（ ）時間から（ ）時間へ
- ・交流及び共同学習の国語の時間を多くした：週あたり（ ）時間から（ ）時間へ
- ・交流及び共同学習の国語の時間を少なくした：週あたり（ ）時間から（ ）時間へ
- ・特に変容していない

＊変更した、あるいは変更しない理由を記入して下さい。

国語の指導において重点化した指導内容

＊年間を通して、重点化しようと考えた指導内容について記入して下さい。

国語の指導において軽減化した指導内容

＊年間を通して、簡単に扱おうと考えた指導内容について記入して下さい。

4 2年目の研究課題

本研究の1年目としては、特に国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)を作成し、シートを活用することによって、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の学習の習得状態を確認することが可能であった。しかし、学習の習得状態をある程度確認できたとしても、自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員は、次に教育課程の編成を実施しなくてはならない。特別支援学級において特別の教育課程を編成する際は、限られた総授業時数の中で、児童生徒に適した教科学習の内容や時数をどう組み込んでいけば良いのか、まだまだ担当者の経験則に頼っている現状である。

本研究では、2年目の課題として以下の視点を列挙しておく。

- ①算数科・数学科カリキュラムアセスメントシート(仮称)の完成を目指す。
- ②国語科カリキュラムアセスメントシート(仮称)のブラッシュアップを図る。
- ③本研究で提案している「カリキュラムアセスメント(仮称)」に適切な名称を検討する。
- ④研究協力校の担当教員とともに、研究対象の児童生徒の教育課程の編成の在り方や、特に国語科及び算数科・数学科の具体的な指導内容等について検討する。
- ⑤研究協力校の事例研究を通して、自閉症のある児童生徒の教科指導の在り方について、その実態から重点化する学習内容や軽減化する学習内容について検討する。

重点推進研究（平成 22 年度～23 年度）
特別支援学級における自閉症の児童生徒の
カリキュラムアセスメント(仮称)に基づいた教育課程編成の実証的研究

中間報告書（外部評価を受ける前の段階）

平成 23 年 3 月

研究代表者 廣瀬由美子

発行 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比 5-1-1

電話 046-839-6802（代表）
